

## スワヒリ語マクンドゥチ方言の文法概略と民話資料二編

古本 真

日本学術振興会／大阪大学\*

makomako1986@gmail.com

キーワード：スワヒリ語マクンドゥチ方言、文法概略、民話資料

### 1 はじめに

本稿では、スワヒリ語マクンドゥチ方言の文法概要と民話資料を提示する。2 節では、マクンドゥチ方言の基本情報と文法概略について述べる。3 節では、筆者が収集した民話資料を提示する。

### 2 マクンドゥチ方言概要

#### 2.1 マクンドゥチ方言の基本情報

スワヒリ語は東アフリカ沿岸部に 20 前後の地域変種（方言）が存在することが知られている (Nurse & Hinnebusch 1993: 5-14)。マクンドゥチ方言は、そうした地域変種の一つである。Nurse は、スワヒリ語の諸方言を北部諸方言と南部諸方言に分けているが、この分類では、マクンドゥチ方言は南部諸方言に分類される (Nurse 1982: 168)。マクンドゥチ方言のことを話者たち自身は、カエ方言 (Kikae) と呼ぶ。また、先行研究ではハディム方言 (Kihadimu) と呼ばれることもあるが、本稿では地域名に即して、マクンドゥチ方言 (Kimakunduchi) と呼ぶことにする<sup>1</sup>。なお、標準スワヒリ語や、その標準スワヒリ語の土台となったウングジャ方言 (Kiunguja) は区別せずにスワヒリ語と呼ぶことにする。

先行研究に従えば、マクンドゥチ方言の話者はタンザニア連合共和国ザンジバル・ウングジャ島の南部地域に分布しているとされる<sup>2</sup> (Whiteley 1959: 43, Nurse & Hinnebusch 1993: 11)。正確な話者数はわからないが、2012 年タンザニア国勢調査<sup>3</sup>によればマクンドゥチ郡<sup>4</sup>の

---

\* 本研究は、JSPS 科研費 13J03150 及び 16J03295 の助成を受けている。この研究のためにデータを提供してくれた Zainabu Khatibu Bonde 氏、Sigombe Haji Choko 氏、草稿の段階から有益な助言を与えてくれた白田理人氏、宮川創氏には、ここに記して謝意を表します。

<sup>1</sup> ウングジャ島北部のトゥンバトゥ島では、マクンドゥチ方言と言語的に異なるスワヒリ語の地域変種、トゥンバトゥ方言が話されている。このトゥンバトゥ島の方言話者たちは、自分たちの方言をカエ方言 (Kikaye) と呼ぶ。トゥンバトゥ方言との混同をさけるために、本稿では、マクンドゥチ方言をカエ方言と呼ぶことは避ける。

<sup>2</sup> マクンドゥチ郡在住の話者によれば、現在、カエ方言に近似する変種の話者がいるのは、主にブウェジュウ (bwejuu) から、マクンドゥチにかけての、ウングジャ島南東部であると推測される。

<sup>3</sup> <http://www.nbs.go.tz/> 参照。

<sup>4</sup> 統計にマクンドゥチ郡そのものの人口は掲載されていない。ここに挙げる数字はマクンドゥチ郡を構成する六つの行政地域 (Nganani, Kijini, Mzuri, Kajengwa, Kiongoni, Tasani) の人口の合計である。

人口は 11,742 人である。本稿で提示する文法に関するデータは基本的に、マクンドゥチ郡のカジェングワ、ンガナニという地域の話者から得られたものである。

マクンドゥチ方言とスワヒリ語の間には、語彙、音調、名詞や動詞の屈折形式などに違いがある。

## 2.2 音韻的特徴

### 2.2.1 音素目録と表記

マクンドゥチ方言の音素目録は以下のように提示することができる。[ ] 内の表記は IPA によるより近似的な音価である。本稿では、例示の際は [ ] 外の表記を斜体にして用いる。この表記は概ねスワヒリ語の正書法に対応する。

表 1：母音

i	u
e [ɛ]	o [ɔ]
a	

表 2：子音

p	t	ch [tʃ]	k	
p <sup>h</sup>	t <sup>h</sup>	ch <sup>h</sup> [tʃ <sup>h</sup> ]	k <sup>h</sup>	
mb	nd	nj [ndʒ]	ng [ŋg]	
b [β]	d [d]	j [ʃ]	g [g]	
f [ɸ]	th [θ]	s	sh [ʃ]	h
v [β]	dh [ð]	z	gh [ɣ]	
m [m~ɱ]	n (ŋ)	ny [ɲ]	ng' [ŋ]	N
	l r			
w		y [j]		

/m/ には、[m] と [ɱ] という条件異音が存在する。母音の直前では [m]、子音の直前では [ɱ] となる。本稿では、成節的な場合は、*m* と表記する。/N/ は成節的で、その調音点は未指定で後続する子音に同化する。つまり、/N/ の実現形と /m/ の実現形は区別できない場合がある。成節的な /N/ と /m/ の違いは、前者の音価決定には形態音韻論的操作が関わっているのに対して、後者はそうでないという点にある。/ɲ/ は *-langanza* 「修理する」という語にのみ現れる<sup>5</sup>。/th, dh, gh/ は、借用語にのみ観察される。

<sup>5</sup> *-langanza* の *ɲ* は、/N/ の異音の一つとみなし、/ɲ/ は音素としてたてない分析も可能かもしれない。本稿では、音価決定に形態音韻論的操作が関わるものを /N/、そうでないものを /ɲ/ としている。

### 2.2.2 音節構造

V, CV, C<sub>1</sub>C<sub>2</sub>V, C という音節構造が認められる。C<sub>1</sub>C<sub>2</sub>V の C<sub>2</sub>として現れるのは /w, y/ である。子音単独で一つの音節をなすことができるのは、成節鼻音の /m [m̥], N/ である。なお、いくつかの接頭辞、後接語は、これらの成節鼻音で実現される (/m/: 1 クラス・3 クラス・18 クラス名詞接頭辞、二人称複数主語接辞、三人称単数目的語接辞、18 クラス主語接辞・目的語接辞、/N/: 一人称単数主語接辞、動作主標識接語)。/m/ は単独で形態素をなさない場合もあるが、/N/ は必ず単独で形態素となる。

### 2.2.3 プロソディ

マクンドゥチ方言に語の意味の弁別に寄与する声調が存在する可能性がいくつかの先行研究で指摘されているが (Whiteley 1959: 47, Racine-Issa 2002: 27)、これらの研究で挙げられている通りの声調の実現は筆者の調査では確認されていない。二音節や三音節の名詞を観察する限りでは、音節間でピッチが平坦に推移している場合が多く、声調と呼ぶに値する現象は今のところ見つかっていない。それ以外のプロソディ特徴については未確認である。

## 2.3 語順と形態法

基本語順は SVO であるといえる。ただし、この語順は固定的ではなく、ある程度の交替がゆるされる。語順の決定には、情報構造も関与していると考えられる。節内においては主要部標示型で、主語や目的語と一致する標識が動詞に現れる。名詞句内では、主名詞に修飾要素が後続する。ただし、指示詞は名詞の前後に現れることができる<sup>6</sup>。名詞句においては、従属部標示型で、名詞修飾要素が、主名詞に応じて異なる形式で現れる。

形態的類型は基本的に、統合的・膠着的であり、接頭辞型の形態法をもつ。複合や重複も観察されるが、生産的な語形成法であるかは、現段階では断定できない。ただし、後述する動詞連続を複合とみなした場合、この語形成法は生産的であるといえる。

## 2.4 名詞類

単独で述語の項となることができるものを、名詞類として分類すると、名詞類には、名詞、形容詞、代名詞、指示詞、所有詞、疑問詞が含まれる。また、属辞でマークされた項も単独で述語の項となる。不定形接辞 *ku-* でマークされた動詞語幹、準体言接頭辞でマークされた動詞語幹も、単独で述語の項となるが、この二つについては本節では扱わない。

<sup>6</sup> 指示詞は、名詞の後に現れる場合、他の修飾語と同様に名詞を限定的に修飾する一方、前に現れる場合は、指示詞と名詞は同格的な意味関係にあり、後続する名詞によって、指示詞の指示対象がなんであるかが具体的に説明されているという違いがあると現段階では考えている。例えば、指示詞が名詞に先行すると、「どれが欲しいの」という疑問文の答えにはならない。これは、名詞に先行する指示詞は、複数の選択肢の中から一つを限定することができないためであると考えられる。

### 2.4.1 名詞と名詞クラス

マクンドゥチ方言の名詞は、名詞句の主要部になるという特徴をもつ。また名詞そのものの固有の性質として、どの名詞クラスに属しているかが決まっている。言い換えれば、すべての名詞は、有限個のいずれかの名詞クラスに必ず属している。

名詞と一致する要素（形容詞、指示詞、所有詞、属辞、動詞人称接辞）の形式から、マクンドゥチ方言には、13 の名詞クラスが存在すると考えられる。それぞれのクラスに対して、1~10, 15, 16, 18 と番号が付すことにする。この番号はバントゥ諸語研究で共通して用いられるものを援用している。なお、Racine-Issa (2002: 30-49) は 11 クラスと 17 クラスも独立したカテゴリーとして認めているが、名詞と一致する要素の形式を分類基準とした場合、この二つのクラスに属するとされる名詞と、3 クラス、15 クラスに属する名詞とを区別することはできない<sup>7</sup>。

表 3 に、それぞれのクラスに属する代表的な名詞と指示詞、所有詞、属辞、形容詞を挙げる。多くの名詞は、[接頭辞-語幹] と分析することができ<sup>8</sup>、接頭辞の形式はそれぞれのクラスで、概ね一貫している。形容詞もほとんどの場合、名詞と同じ形式の接頭辞を有する。以下の表では、接頭辞と語幹の間に形態素境界を示すハイフンを付すが、民話テキストでは、複合語と、後述する指大化名詞、指小化名詞を除き、こうしたハイフンは挿入しない。

表 3 : 名詞とその一致要素の形式

	名詞	指示詞近称	所有詞「私の」	属辞	形容詞「小さい」
G1	<i>m-tʰu</i> 「人」	<i>yuno</i>	<i>yangu~wangu</i>	<i>ya~wa</i>	<i>m-dogo</i>
G2	<i>wa-tʰu</i> 「人」(複数)	<i>wano</i>	<i>wangu</i>	<i>wa</i>	<i>wa-dogo</i>
G3	<i>m-kono</i> 「腕」	<i>uno</i>	<i>wangu</i>	<i>wa</i>	<i>m-dogo</i>
G4	<i>mi-kono</i> 「腕」(複数)	<i>ino</i>	<i>yangu</i>	<i>ya</i>	<i>mi-dogo</i>
G5	<i>tunda</i> 「果物」	<i>lino</i>	<i>lyangu</i>	<i>lya</i>	<i>dogo</i>
G6	<i>ma-tunda</i> 「果物」(複数)	<i>yano</i>	<i>yangu</i>	<i>ya</i>	<i>ma-dogo</i>
G7	<i>ki-tʰu</i> 「物」	<i>kino</i>	<i>changu</i>	<i>cha</i>	<i>ki-dogo</i>
G8	<i>vi-tʰu</i> 「物」(複数)	<i>vino</i>	<i>vyangu</i>	<i>vya</i>	<i>vi-dogo</i>

<sup>7</sup> Racine-Issa (2002) は Meinhof (1932: 128) に代表されるスワヒリ語の名詞分類に従っているようである。一般にバントゥ諸語研究やスワヒリ語研究では、名詞と一致する要素の形式よりも、名詞接頭辞の形式が名詞分類に際して優先される (Katamba 2003: 103, 112, Contini-Morava 1994)。名詞接頭辞が、名詞クラスを示す標識であるということを前提として、名詞接頭辞を名詞の分類基準とする場合、例えば、名詞接頭辞をもたない名詞は一つの名詞クラスに分類されてしまう。このように名詞を分類すると、修飾語や述語との一致という現象を説明することができない。こうした問題を考慮すると、名詞接頭辞を名詞クラス標識とみなす分析は不適當にみえる。本稿ではこの問題を踏まえて、名詞接頭辞ではなく、一般に文法的性の分類基準とされる名詞と一致する要素の形式を、名詞クラスの分類基準とする。これに伴い、名詞クラスを表すグロスとして G 'gender' を用いることにする。

<sup>8</sup> 本稿では、形態的特徴の説明のために、名詞を接頭辞と語幹に分けて提示するが、接頭辞と語幹が別々にレキシコンに登録されているかどうかについては、別途議論する必要があるだろう。

	名詞	指示詞近称	所有詞「私の」	属辞	形容詞「小さい」
G9	<i>n-guo</i> 「服」	<i>ino</i>	<i>yangu</i>	<i>ya</i>	<i>n-dogo</i>
G10	<i>n-guo</i> 「服」 (複数)	<i>zino</i>	<i>zangu</i>	<i>za</i>	<i>n-dogo</i>
G15	<i>mahaa</i> 「場所」	<i>kuno</i>	<i>kwangu</i>	<i>kwa</i>	<i>ku-dogo</i>
G16	<i>mahaa</i> 「場所」	<i>vano</i>	<i>vangu</i>	<i>va</i>	<i>va-dogo</i>
G18	<i>mahaa</i> 「場所」	<i>ṃno</i>	<i>mwangu</i>	<i>mwa</i>	<i>mu-dogo~ṃ-dogo</i>

以下で、それぞれのクラスに属する名詞の特徴を簡単に述べる。10クラスまでの名詞は、基本的に、奇数番号のクラスに単数を表す名詞が、直後の偶数クラスに同じ意味の複数を表す名詞が属している。以下では、奇数クラスと続く偶数クラスは分けずに説明する。15, 16, 18はそれぞれ、動詞不定形 (15クラス)、場所名詞 (15, 16, 18クラス) のクラスとなる。

#### 2.4.1.1 1/2 クラス

このクラスに分類される名詞は、典型的には *m*-(*~mu*-*~mw*-)/*wa*-(*~w*-) という接頭辞をもち、有生物を指示対象とする。しかし、借用語の多くは、この接頭辞をもたない (例: *askari* 「兵、警察官」)。また、なかには語頭が 9/10 クラスの名詞と同様に前鼻音化阻害音や有気音、鼻音 *ny* となるものもある (例: *n-dege* 「鳥」)。こうした名詞は単複で音形に違いはない。なお、少数だが有生物を指示対象とする名詞でも、他のクラスに属するものがある (例: *bata* 「アヒル」、*ki-tu* 「ヤマネコ」)。複数形の所有詞だけが、10クラスの形式となる名詞も存在するが、こうした名詞は、概ね親族関係を表す名詞である。

#### 2.4.1.2 3/4 クラス (3/10 クラス)

このクラスに分類される名詞は、単数形の接頭辞の形式で大きく二つに分けることができる。一方は *m*-(*mw*-)/*mi*- という接頭辞をもつタイプである。もう一方は、*u*-/*mi*- という接頭辞をもつタイプである。後者のタイプの名詞の中には、複数形が二つ存在するものがある。一方の複数形は 4 クラスに属しており、*mi*- という接頭辞をもつ。もう一方の複数形は 10 クラスに属しており、語頭の形式もそれに即して、前鼻音化閉鎖音、有気音、鼻音 *ny*、摩擦音のいずれかになる (例: *u-limi* (単数) /*mi-limi* (4 クラス複数) /*n-dimi* (10 クラス複数) 「舌」)。また、単数形の接頭辞が *u*-(*w*-) となる名詞の中には、10 クラスの複数形しかもたないものもある (例: *u-ngo/ny-ungo* 「手箕」)。

植物を指示対象とする名詞はこのクラスに属する (例: *m-gomba/mi-gomba* 「バナナの木」、*u-jiti/mi-jiti* 「木」)。ただし、このクラスには植物以外を指す名詞も多く存在する。

#### 2.4.1.3 5/6 クラス

5 クラスの名詞は、多くの場合、接頭辞をもたない。6 クラス名詞の接頭辞は *ma*- である。ただし、二音節名詞の中には、少数ではあるが、*ji-no/me-no* 「歯」、*di-cho/ma-cho* 「目」のよ

うに、接頭辞をもつものもある。なお、*me-no*, *di-cho* の不規則な形式の接頭辞は、通時的変化の結果生じたものであると考えられる。6 クラスの *ma-* という接頭辞は、他のクラスに属する名詞の語幹に付され、派生を引き起こすことがある。こうした派生では、複数性が明示されていると考えられる (例: *n-guo* >> *ma-guo* 「服」)。

#### 2.4.1.3 7/8 クラス

このクラスに分類される名詞は、*ki-/vi-* という接頭辞をもつ。このクラスに属する名詞の意味的な特徴を一般化することは難しい。例えば、言語名は *ki-* という接頭辞を伴い、7 クラス属する。(例: *ki-kae* 「カエ方言」、*ki-japani* 「日本語」)。

#### 2.4.1.4 9/10 クラス

このクラスに属する固有語は、語頭が前鼻音化閉鎖音、有気音、鼻音 *ny*、摩擦音のいずれかになる。このクラスの名詞接頭辞として、調音点未指定の鼻音がたてられることもある (Racine-Issa 2002: 41–42)。本稿では、そのような接頭辞はみとめないが<sup>9</sup>、説明の際は、便宜上、接頭辞とみなしうる部分とそれ以外の部分にハイフンを付す。このクラスには借用語も多く含まれている。借用語は接頭辞を持たない。9 クラスと 10 クラスの名詞が単複の対を成す場合、単数を表す 9 クラスの名詞と複数を表す 10 クラスの名詞の音形は同じである。

#### 2.4.1.5 15, 16, 18 クラス

これらのクラスには、語彙化した名詞がほとんど存在しない。15 クラスには動詞不定形、15, 16, 18 クラスには場所名詞が属しているが、動詞不定形は動詞語幹に接頭辞 *ku-* を付加することによって、場所名詞は、他のクラスの名詞に *-ni* という接尾辞が付加することによって、形成される。唯一これらのクラスに固有の名詞として挙げられるのは *mahaa* 「場所」くらいである。これらのクラスに属する場所名詞の指示対象の詳細については別稿に譲るが、概ね、以下のような違いがあると考えられる。

- 15 クラス：聞き手が知らないと話し手が想定する不定の場所。
- 16 クラス：聞き手も知っていると話し手が想定する定の場所。
- 18 クラス：ある場所、モノの内部。

#### 2.4.1.6 指大化と指小化

民話中では、指大化、あるいは指小化された名詞が散見される。以下でこの二つの派生について簡単に説明する。

指大化された名詞は 5/6 クラスに属する。指大化には、派生前の接頭辞の脱落 (例: *n-dege* 「鳥」 >> *dege* 「巨鳥」)、派生前の接頭辞と接頭辞 *ji-* との交替 (例: *n-dege* 「鳥」 >> *ji-dege*

<sup>9</sup> 9/10 クラス名詞については、共時的に分析可能な名詞接頭辞があるわけではなく、かつての名詞接頭辞の名残として語頭に共通する特徴があると考えの方がよいだろう。

「巨鳥」)、派生前に接頭辞を持たなかった名詞に *ji-* という接頭辞を付加 (例: *shetani* 「お化け」>>*ji-shetani* 「化け物」)、というタイプがある。中には、*ji-* という接頭辞を二つ伴う名詞もあるが、これらの語幹は二音節で初頭音が母音であるか、一音節である (例: *ny-oka* >>*j-oka* >>*ji-j-oka* 「ヘビ」、*m-thu* >>*ji-thu* >>*ji-ji-thu* 「人」)。5 クラス名詞を修飾する形容詞は、語幹の初頭音が母音であるものを除き、ふつう接頭辞をもたないが、もつとも有標な指大化形式の名詞を修飾する際は、*ji-* という接頭辞をもつ (例: *dege kubwa, ji-dege ji-kubwa* 「大きな巨鳥」)。他の名詞接頭辞は単複で交替するが、指大化を表す *ji-* という接頭辞は *ma-* とは交替せず、複数形を形成する際 *ma-* が *ji-* に前接する (例: *ma-ji-dege* 「巨鳥 (複数)」)。

指小化された名詞は 7/8 クラスに属しており、*ki-/vi-* という接頭辞をもつ (例: *n-dege* 「鳥」>>*ki-dege/vi-dege* 「小鳥」)。指小化された名詞は、接頭辞 *ki-* の直後に *ji-* という接頭辞を伴うこともある (例: *n-dege* 「鳥」>>*ki-ji-dege/vi-ji-dege* 「小鳥」)。

なお、民話中では、基本的に、名詞接頭辞と語幹を形態素分析した形で提示しないが、指大化、および指小化された名詞については、接頭辞とそれ以外の部分を分けて提示する。

#### 2.4.2 形容詞

典型的な形容詞は、①一致する名詞に応じて異なる接頭辞をもつ (例: 表 3 の *-dogo* 「小さい」)、②名詞を直接修飾することができる、③コピュラ動詞-*wa* なしでも叙述することができる、という特徴をもつ。典型的な形容詞の接頭辞は名詞接頭辞と同形である (3 クラスは *m-* か *mw-*)。この形態的特徴だけみると、名詞と形容詞の区別は難しいようにも思われるが、名詞が文脈的な支えなしで単独で述語の項となるのに対して、形容詞は、修飾していると想定可能な主名詞が文脈から明らかでない限り、単独では現れないという違いがある。

数量詞についても、直接名詞を修飾できる、典型的な形容詞と同様の形態特徴をもつ (「6」、 「7」と「9」以降の数詞を除く) という点を踏まえると、形容詞に分類することができるだろう。ただし、数量詞は、遊離可能という点で、典型的な形容詞とは異なる (例: *wanafuzi wengi wa-ja* (students many.G2 3PL.SM-come.PFV) 非遊離 / *wanafuzi wa-ja wengi* (students 3PL.SM-come.PFV many.G2) 遊離 「たくさんの学生が来た」)。

また、①の特徴をもたず、修飾する名詞によって形式が変わらないが、名詞を直接修飾して、単独で叙述可能なものがある。こうしたものも形容詞に分類する (例: *ghali-hali*<sup>10</sup> 「高い」)。こうした名詞の多くは借用語だが、借用語であれば接頭辞を伴わないという一般化は成立しない (例: *-laini* 「やわらかい」、*-haba* 「少ない」)。

上述の形容詞は、例えば、1/2 クラスの名詞だけでなく、3/4 クラス、5/6 クラスというように、異なるクラスの名詞を修飾可能で、形式的な交替があるかどうかは別にして複数のクラスにまたがるパラダイムを有していると言えるが、中には、1/2 クラスの名詞だけを修飾可能なものも存在する (例: *m-choyo/wa-choyo* 「ケチな」)。Racine-Issa (2002: 52) は、こうしたものは名詞とみなされるかもしれないと述べているが、文脈の支えなしで項とはならない

<sup>10</sup> 話者によってどちらの形式を用いるかは異なる。

ことを踏まえると、形容詞に分類するのが妥当だろう。1/2 クラスの名詞だけを修飾可能であるという特徴は、こうした形容詞の意味的な特徴によるものと考えられる。

上記以外に、形容詞のような意味をもつが、直接名詞を修飾できず、叙述にはコピュラ動詞-*wa* が必須のものが存在する。これらは、接頭辞として分析可能な部分の有無にかかわらず、対応する名詞と一致しない(例:*hai*「生きている(接頭辞無)」、*u-chi*「裸(接頭辞有)」。また、これらは動詞を修飾することはできる。こうしたものを形容詞と分類すべきか、あるいは副詞という品詞を設定してそこに分類すべきかについては、本稿では判断を保留する。

### 2.4.3 代名詞

代名詞には、自立的なもの、拘束的なものが存在する。自立的なものは、指示対象の人称によって、異なる形式となる。本稿ではこうした代名詞を人称代名詞と呼ぶ。人称代名詞は、二人称単数と、三人称単数に限り、短縮形がある。なお、三人称複数の形式は、2 クラスの中称の指示詞と同形である。これらは同一の語彙と認められるかもしれない。

表 4：人称代名詞

	単数	複数
一人称	<i>mie</i>	<i>suwe</i>
二人称	<i>we~weye</i>	<i>nyuwe</i>
三人称	<i>ye~yeye~yeyeye</i> <sup>11</sup>	<i>wao</i>

拘束的な代名詞を、本稿では、拘束代名詞と呼ぶ。拘束代名詞は、指示対象の人称か名詞クラスに応じて異なる形式となる。一、二人称複数に対応する形式はない。この拘束代名詞は準体言接辞と基本的に同形である。現れる環境としては、共格標識 *na* = 「~とともに、~も」の直後、所有を表す動詞-*na* の直後(1~10 クラスの拘束代名詞に限る)、コピュラ動詞-*wa* の直後(15, 16, 18 クラスの拘束代名詞に限る)が挙げられる。所有を表す動詞-*na* やコピュラ動詞-*wa* が、拘束代名詞でマークされた場合、拘束代名詞の指示対象に応じた項は現れることもあれば、現れないこともある。この特徴から、拘束代名詞は、後述する主語接辞や目的語接辞と同じように、項との一致を示す機能ももっていると考えられる。

なお、コピュラ動詞が、拘束代名詞を伴う場合、主語の指示対象がある場所に存在することを表す。このことを踏まえ、本稿では、コピュラ動詞の直後に現れる 15, 16, 18 クラスの拘束代名詞に存在を示すグロス EXIST を付す。また、アスペクトやムードを表す接頭辞がなく、単に不在を表す場合は、この拘束代名詞と、後述する否定接頭辞 1 と主語接辞とだけで述語をなす(例:*wa-wa-ko* (3SG.PL-COP.PFV-EXIST)「彼らがそこにいる(存在)」/*ha-wa-ko* (NEG-3PL.SM-EXIST)「彼らがそこにはいない(不在)」)。

<sup>11</sup> *yeyeye* という形式はエリシテーション調査では多くの場合、容認されなかったが、談話資料の中では確認できる。また、Racine-Issa (2002: 63) も *yeyeye* という形式を提示している。



表 6 : 拘束代名詞

1SG	2SG	3SG/G1	3PL/G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	G10	G15	G16	G18
<i>mi</i>	<i>we</i>	<i>e</i>	<i>o</i>	<i>o</i>	<i>yo</i>	<i>lyo</i>	<i>yo</i>	<i>cho</i>	<i>vyo</i>	<i>yo</i>	<i>zo</i>	<i>ko</i>	<i>vo</i>	<i>mo</i>

## 2.4.4 指示詞

指示詞は近称、中称、遠称の三系列から成る。近称と遠称の指示詞基本形の初頭音節は、1 クラスを除いて、主語接辞と同形である。近称と中称には、基本形に加えて、重複形と縮約形が存在する。近称の重複形は、基本形の初頭音節が重複した形式とみなすことができる。中称については、多くの場合、基本形の最後の音節が重複した形式とみなすことができるが、その型に当てはまらないものもある (5, 7, 8, 15, 16 クラス)。また重複形の最終音節を削除したとみられる形式も観察される (例: *vivi*, *vivyo*, *vavo*, *kuku*)。遠称には近称や中称のような特異な形式の重複形は存在しないが、完全重複のような形式で用いられることがある。縮約形の音形は、近称が基本形の第一音節、中称が基本形の第二音節に対応している。

表 7 : 指示詞

	近称	近称重複	近称縮約	中称	中称重複	中称縮約	遠称
G1	<i>yuno</i>	<i>yuyuyu~yeyeyu</i>	= <i>yu</i>	<i>uyo</i>	<i>yuyoyo~yeyeyo</i>	= <i>yo</i>	<i>yulya</i>
G2	<i>wano</i>	<i>wawawa</i>	= <i>wa</i>	<i>wao</i>	<i>waoo</i>	= <i>o</i>	<i>walya</i>
G3	<i>uno</i>	<i>uuu</i>	= <i>u</i>	<i>uo</i>	<i>uoo</i>	= <i>o</i>	<i>ulya</i>
G4	<i>ino</i>	<i>iii</i>	= <i>i</i>	<i>iyoy</i>	<i>iyoyoy</i>	= <i>yo</i>	<i>ilya</i>
G5	<i>lino</i>	<i>lilili</i>	= <i>li</i>	<i>ilyoy</i>	<i>lilyolyo</i>	= <i>lyo</i>	<i>lilya</i>
G6	<i>yano</i>	<i>yayaya</i>	= <i>ya</i>	<i>yayoy</i>	<i>yayoyoy</i>	= <i>yo</i>	<i>yalya</i>
G7	<i>kino</i>	<i>kikiki</i>	= <i>ki</i>	<i>icho</i>	<i>kichocho</i>	= <i>cho</i>	<i>kilya</i>
G8	<i>vino</i>	<i>vivivi</i>	= <i>vi</i>	<i>ivyo</i>	<i>vivyovyoy</i>	= <i>vyo</i>	<i>vilya</i>
G9	<i>ino</i>	<i>iii</i>	= <i>i</i>	<i>iyoy</i>	<i>iyoyoy</i>	= <i>yo</i>	<i>ilya</i>
G10	<i>zino</i>	<i>zizizi</i>	= <i>zi</i>	<i>izo</i>	<i>izozoy</i>	= <i>zo</i>	<i>zilya</i>
G15	<i>kuno</i>	<i>kukuku</i>	= <i>ku</i>	<i>uko</i>	<i>kukokoy</i>	= <i>ko</i>	<i>kulya</i>
G16	<i>vano</i>	<i>vavava</i>	= <i>va</i>	<i>avo</i>	<i>vavovoy</i>	= <i>vo</i>	<i>valya</i>
G18	<i>mno</i>	<i>mumumu</i>	= <i>mu</i>	<i>umo</i>	<i>mumomoy</i>	= <i>mo</i>	<i>mlyay</i>

基本形と重複形は、名詞を修飾することも、単独で項として現れることもできるが、縮約形は名詞を修飾することができない。縮約形は、述語の後に現れて、述語の前に現れる (あるいはあると想定できる) 構成素を照応する。現れる位置は、述語の後であれば、述語の直後である必要はなく、述語に後続する項や副詞要素の直後に現れることもある (例: *mwalimu yuno ka-ja jana=yu* (teacher DEM.PROX.G1 3SG.SM-come.PFV yesterday=DEM.PROX.G1) 「この先生は、昨日来た」)。なお述語の前に構成素が二つある場合、どちらの構成素も縮約形で照応されるが、二つの縮約形が同時に現れることはできない。

10 クラスまでの近称と中称の指示詞の直後に、それぞれ *-ku/-va*, *-ko/-vo* が付加され、もっぱら現場指示のために用いられる指示詞も存在する (例: *yuno-ku*, *yuno-va*, *uyo-ko*, *uyo-vo*)。付加される *-ku/-va*, *-ko/-vo* は 15, 16 クラスの近称と中称に由来すると考えられる。15, 16 クラスの指示詞は、場所を指す指示詞である。つまり、このタイプの指示詞は、有生物やモノを指す指示詞と場所を示す指示詞が複合して形成されていると言える。

1~10 クラスについては、基本的に、近称と中称だけが現場指示用法をもつ。中称で指示できないより遠くのは、上記の複合的な指示詞のうち、有生物やモノを指す 1~10 クラスの指示詞と 15 クラスの中称の指示詞を複合させたもので指示する。また、近称の指示詞が文脈指示のために用いられていると断言できる例は現段階では確認できない。中称と遠称には文脈指示用法がある。

重複形は、先行文脈にある対象もしくは発話場面に存在する対象を取り立てるために用いられているようである。

#### 2.4.5 所有詞

所有詞は、所有者の人称と所有物の名詞クラスに応じて異なる形式となる。1 クラスの所有詞は 2 クラスの所有詞と同じ形式で現れることがあるが、これはスワヒリ語からの影響であると考えられる。スワヒリ語では 1 クラスと 2 クラスの所有詞は同形である。同様のスワヒリ語からの影響は属辞でも観察される。15, 16, 18 クラスの所有詞が単独で用いられた場合、「所有者が存在する場所」という意味を表される。15, 16, 18 クラスの属辞で項がマークされる場合も、同様に「項の指示対象が存在する場所」という意味になる。

表 8 : 所有詞

	1SG	2SG	3SG	1PL	2PL	3PL
G1	<i>yangu~wangu</i>	<i>yako</i>	<i>yake</i>	<i>yetu</i>	<i>yenu</i>	<i>yao</i>
G2	<i>wangu</i>	<i>wako</i>	<i>wake</i>	<i>wetu</i>	<i>wenu</i>	<i>wao</i>
G3	<i>wangu</i>	<i>wako</i>	<i>wake</i>	<i>wetu</i>	<i>wenu</i>	<i>wao</i>
G4	<i>yangu</i>	<i>yako</i>	<i>yake</i>	<i>yetu</i>	<i>yenu</i>	<i>yao</i>
G5	<i>lyangu</i>	<i>lyako</i>	<i>lyake</i>	<i>lyetu</i>	<i>lyenu</i>	<i>lyao</i>
G6	<i>yangu</i>	<i>yako</i>	<i>yake</i>	<i>yetu</i>	<i>yenu</i>	<i>yao</i>
G7	<i>changu</i>	<i>chako</i>	<i>chake</i>	<i>chetu</i>	<i>chenu</i>	<i>chao</i>
G8	<i>vyangu</i>	<i>vyako</i>	<i>vyake</i>	<i>vyetu</i>	<i>vyenu</i>	<i>vyao</i>
G9	<i>yangu</i>	<i>yako</i>	<i>yake</i>	<i>yetu</i>	<i>yenu</i>	<i>yao</i>
G10	<i>zangu</i>	<i>zako</i>	<i>zake</i>	<i>zetu</i>	<i>zenu</i>	<i>zao</i>
G15	<i>kwangu</i>	<i>kwako</i>	<i>kwake</i>	<i>kwetu</i>	<i>kwenu</i>	<i>kwao</i>
G16	<i>vangu</i>	<i>vako</i>	<i>vake</i>	<i>vetu</i>	<i>venu</i>	<i>vao</i>
G18	<i>mwangu</i>	<i>mwako</i>	<i>mwake</i>	<i>mwetu</i>	<i>mwenu</i>	<i>mwao</i>

また所有者が二人称単数、三人称単数で、所有物が親族関係を表す名詞の場合、所有詞は弱化した形式=*wo*/*yo*/*lyo* (所有者: 二人称単数、所有物: 単数)、=*we*/*ye*/*lye* (所有者: 三人称単数、所有物: 単数)、=*zo* (所有者: 二人称単数、所有物: 複数)、=*ze* (所有者: 三人称単数: 所有物単数) となる。所有物が単数の場合に、いくつかのバリエーションがあるが、どの形式が現れるかは語彙的に決まっている。この違いというのは、それぞれの親族名詞が、歴史的に見た場合、もともと別の名詞クラスに属していたことを示唆すると考えられる。なお、*kaka* 「兄」、*dada* 「姉」、*baba* 「父」、*mama* 「母」の所有者はこの弱化形ではなく、通常の所有詞で表される。また親族名詞の語末母音が *a* となる場合、三人称複数の所有詞以外には、通常の形式に加えて、初頭の子音 *y* が脱落した=*angu*/*ako*/*ake*/*etu*/*enu* という形式が存在する。これは *kaka* 「兄」、*dada* 「姉」、*baba* 「父」、*mama* 「母」にも当てはまる。*mwana/wana* 「子供」と *mwezi/wezi* 「友達」は、所有者が一人称単数、一人称複数、二人称複数、三人称複数 (*mwezi/wezi* 「友達」のみ) の場合、形態的に所有詞とより融合が進んだ形式が観察される (例: *mwanangu* 「私の子供」、*mwenetu* 「私たちの子供」、*mwenenu* 「あなたたちの子供」)。

民話中では、所有詞には、*my*, *your*, *his/her*, *our*, *their* というグロスを付す。POSS というグロスは、後述する *-na* で表される所有表現に対して用いる。

#### 2.4.6 属辞でマークされる項

属辞でマークされる項は、先行する名詞を修飾する。属辞の形式は修飾する名詞の名詞クラスによって異なる。本稿では、この属辞には英語の *of* をグロスとして付す。属辞でマークされた項によって主名詞の所有者 (例: *mke ya=mwanangu* (wife of.G1=*my*.child) 「私の子供の妻」)、主名詞の特徴 (例: *mkono wa=soto* (hand of.G3=*left*) 「左手」)、目的 (*ku-na-ki-chaka cha=nini* (2SG.SM-IPFV-G7.OM-want of.G7=*what*) 「あなたは何のためにそれが欲しいの?」) などが表される。属辞でマークされる項は、修飾する主名詞が明示されずに用いられることもある (例: *ya=kwaza ka-fu* (of.G1=*first* 3SG.SM-die.PFV) 「最初の (子) は死んだ」)。15 クラスの *kwa*= は、主名詞を修飾するためではなく、動詞を修飾するために用いられることもある。こうした用法では、道具 (例: *tw-ende kwa=honda* (1PL.SM-go.subj of.G15=*motor.bike*) 「バイクで行こう」) や、原因が表される (例: *juma ka-fu kwa=malaria* (PN 3SG.SM-die.PFV of.G15=*malaria*) 「ジューマはマラリアで死んだ」)。なお、準体言は属辞に後続することはできない。

#### 2.4.7 疑問詞

名詞類に分類される疑問詞は、名詞を修飾することがないタイプと、修飾することができるタイプに分けることができる。前者のタイプの疑問詞には、*nini* 「何」、*nani* 「誰」、*wapi* 「どこ」、*lini* 「いつ」がある。*viko* 「どこ」という疑問詞もあるが、おそらくこれは古語であり、ほとんど使われることがない<sup>12</sup>。後者のタイプの疑問詞には、*gani* 「どんな」、*-ngavi* 「いくつ

<sup>12</sup> BAKIZA (2012: 132) には *viko* 「どこ」という語彙が掲載されている。現存する話者でも、より伝統的な形で話そうとした場合に、この語彙を使うことがある。

の]、*-vi*「どの」が挙げられる。*-ngavi* と *-vi* は一致する名詞の名詞クラスに応じて、異なる接頭辞をとる。*-ngavi* の接頭辞は形容詞と同様に名詞接頭辞と同形である。*-vi* の接頭辞は1クラスを除いて、動詞語幹をマークする主語接辞と同形である。1クラスは *yu-vi* という形式になる。疑問詞には、これら以外に、*=je*「何、どのように」、*jaje*「どのように」がある。*=je* は、ホストとなる語の品詞を選ばない接語として現れる場合が多いが、単独で用いられることもある。*jaje* は *=je* と *ja=*「ように」という二つの語が複合して形成されている可能性が指摘できる。なお、*nini* は節中の名詞と同じ位置に現れることが一般的だが、動詞活用形中の動詞語幹の位置や、名詞中の語幹の位置に現れることもある(例:*ka-na-nini* (3SG.SM-IPFV-what)「彼がなんだって?」、*m-nini*「なんていう木?」、*ki-nini*「何語?」)。

## 2.5 動詞の活用

マクンドゥチ方言の動詞は、基本的に、2.5.1 で示す活用形をもち、2.5.2 で示す AM 接辞、2.5.4 で示す否定接辞、2.5.6 で示す人称接辞でマークされうる。ただし、いくつか例外的な動詞が存在する。*-ebu*「いない」は否定接辞、主語接辞、目的語接辞をとる形式しかない。所有の *-na* は目的語接辞や、AM 接辞 *-na-*「未完結」、*-mena-*「起動」、*-a-*「完結」でマークされず、2.5.8 で述べる通り、準体言も特殊な形式で実現される場合がある。*-ijua*<sup>13</sup>「知る」、*-kaza*「好ませる」、*-chukia*「嫌わせる」は、AM 接辞 *-na-*「未完結」でマークされない。

### 2.5.1 活用形

動詞の活用形は以下のように提示することができる。なお、本稿では、概ね単独で文を成すことができるかどうかを基準に、定形と非定形を分けている。

#### • 定形

- |   |     |
|---|-----|
| a. (否定接辞 1) — 主語接辞 — AM 接辞 — (目的語接辞) — 語幹 | 基本形 |
| b. (否定接辞 1) — 主語接辞 — (目的語接辞) — 語幹         | 完結形 |
| c. <i>hu</i> — (目的語接辞) — 語幹               | 習慣形 |

#### • 非定形

- |   |        |
|---|--------|
| a. 主語接辞 — <i>ka</i> — (目的語接辞) — 語幹                  | 継起条件形  |
| b. 主語接辞 — (否定接辞 2) — <i>nge</i> — (目的語接辞) — 語幹      | 反実仮想形  |
| c. ( <i>ka</i> ) — (目的語接辞) — 語幹                     | 命令形    |
| d. 主語接辞 — (否定接辞 2) — ( <i>ka</i> ) — (目的語接辞) — 語幹   | 接続形    |
| e. <i>ku</i> — (否定接辞 2) — (目的語接辞) — 語幹              | 不定形    |
| f. <i>m</i> — (否定接辞 2) — (AM 接辞) — (目的語接辞) — 語幹     | 主語準体言形 |
| g. 主語接辞 — (否定接辞 2) — (AM 接辞) — 準体言接辞 — (目的語接辞) — 語幹 | 準体言形   |

<sup>13</sup> 語幹に複数の異形態がある動詞があるが、そうした動詞について、本稿では、引用形式として基本語幹を提示する。語幹の形式については、2.5.3 節を参照されたい。

なお、接続形と命令形は、ともに命令表現で用いられることがある点や、後述する接続語幹が現れうる点が共通しているが、命令表現として用いられる際の複数の聞き手の標示方法（命令形：接語=*ni*、接続形：二人称複数主語接辞 *m-*）やモーダル表現との共起の可否（命令形不可、接続形可）に違いがある。また、2.5.3 で語幹について説明するが、接続語幹は、接続形だけでなく命令形にも接続語幹が現れる場合があることには留意されたい。また、準体言形は、Racine-Issa (2002: 153) が、*formes relatives*（関係節形）と呼んでいるものに対応する。準体言という文法概念については柴谷 (2014) を、マクンドゥチ方言の準体言については古本 (2016) を参照されたい。

## 2.5.2 AM 接辞

AM 接辞は、アスペクト・ムードを表す接頭辞である。AM 接辞として以下のものが挙げられる。なお、それぞれの接辞に付したラベルはあくまで便宜上のものである。

- AM (アスペクト・ムード) 接辞
  - a. *-cha-* 「未実現 (irrealis)」
  - b. *-na-* 「未完結 (imperfective)」
  - c. *-me-/ne-* 「完了 (perfect)」
  - d. *-mena-/nena-* 「起動 (inchoative)」
  - e. *-li-* 「完結否定 (perfective-negative)」
  - f. *-ja-* 「完了否定 (perfect-negative)」
  - g. *-a-* 「完結 (perfective)」 (主語準体言のみ)
  - h.  $\emptyset$  「完結 (perfective)」 (準体言のみ)<sup>14</sup>
  - i. *hu-* 「習慣」 (習慣形のみ)
  - j. *-ka-* 「継起・条件 (consecutive/conditional)」 (継起条件形、命令形、接続形のみ)
  - k. *-nge-* 「反実仮想 (counterfactual)」 (反実仮想形のみ)

基本形には、*-cha-*, *-na-*, *-me-*, *-mena-*, *-li-*, *-ja-* が現れる。主語準体言形には、*-cha-*, *-na-*, *-ne-*, *-nena-*, *-a-* が現れる。*-ne-* と *-nena-* は、直前に現れる *m-* という主語準体言接辞に応じて、*-me-* と *-mena-* が異化した結果生じた形式であると考えられる。準体言形には *-cha-*, *-na-*, *-me-*,  $\emptyset$  が現れる。*-ka-* 「継起・条件」は、継起条件形に現れる場合は継起か条件を、接続形や命令形に現れる場合は「行く」と訳すことができるような、話し手が現在いる位置からの離脱を示す機能が表される<sup>15</sup>。

<sup>14</sup> 他の AM 接辞との交替から、便宜的に  $\emptyset$  という AM 接頭辞を提示する。

<sup>15</sup> 本稿では、それぞれの接辞、語幹が特定の機能を有しているという立場はとらない。特定の機能を有する接辞や語幹を組み合わせることによってではなく、特定の形態統語素性が指定され、その形態統語素性を実現する規則によって、動詞活用形が実現されると考えている。AM 接辞 *-ka-* が継起条件形に現れるか、接続形や命令形に現れるかで、表される事象は異なり、接辞が特定の機能を有していると考えた場合、二つの *-ka-* を仮定する必要があるように思われる。しかし、本稿のような形態論の立場をとる場合、そのような仮定は必要にならない。

なお、*-enda*「行く」はAM接辞*-na-*でマークされず、主語接辞と動詞語幹だけで、未完結を表すことができる。この形式には、必ず別の要素が後続する。また、主語が一人称単数の場合、主語接辞はなく、語幹は *nda* という形式になる。

### 2.5.3 語幹

マクンドゥチ方言の多くの動詞は、基本語幹、完結語幹、接続語幹と呼ばれる三つの形式的に異なる語幹をもつ。語幹末の母音部分を末母音と呼ぶことにすると、基本語幹と接続語幹の末母音は、それぞれ *a, e* となる。完結語幹の形式にはいくつかのヴァリエーションがある。最も典型的な形式の完結語幹では、語幹の次末音節の母音と同じ母音が末母音として現れる。語幹の次末音節が成節鼻音 *m* となる動詞の完結語幹の末母音は *u* となる。一音節語幹の完結語幹の形式は、基本語幹の形式に応じて分類することができる。基本語幹が *Ca* という形式の場合、完結語幹も *Ca* という形式になる。このタイプの動詞として、*-ja*「来る」、*-kʰa*「与える」、*-wa*「コピュラ」が挙げられる。基本語幹が *Cya* という形式の場合、完結語幹は *Ci* となる。このタイプの動詞として、*-lya*「食べる」、*-nya*「雨が降る、糞をする」、*-nywa*「飲む」が挙げられる。なお、*-nywa*「飲む」は、半母音 *w* を含んでいるという点で他の動詞と異なる。基本語幹が *Cwa* の場合、完結語幹は *Cu* となる。このタイプの動詞として、*-fwa*「死ぬ」、*-gwa*「落ちる」、*-pwa*「潮が引く」、*-ivwa*「熟す」が挙げられる。なお、*-ivwa*「熟す」は、非一音節であるという点で他の動詞とは異なる。以下に、一般化した語幹の形式と、それに当てはまる動詞の三つの語幹の形式を提示する。表9中では、末母音とそれ以外の部分の間にハイフンを付すが、本稿の他の部分ではこうした境界は示さない。

表9：語幹の形式

	完結語幹	基本語幹	接続語幹	例
a.	...CV <sub>1</sub> (C)- V <sub>1</sub>	...CV <sub>1</sub> (C)-a	...CV <sub>1</sub> (C)-e	-som-o/-soma/-some 「読む」
b.	...V <sub>m</sub> C-u	...V <sub>m</sub> C-a	...V <sub>m</sub> C-e	-chemk-u /-chemk-a/-chemk-e 「沸く」
c.	C-a	C-a	C-e	-j-a/-j-a/-j-e 「来る」
d.	C-i	Cy-a	Cy-e	-l-i/-ly-a/-ly-e 「食べる」
e.	C-u	Cw-a	Cw-e	-f-u/-fw-a/-fw-e 「死ぬ」

*-cha*「夜が明ける」、*-chwa*「日が沈む」、*-ijua*「知る」、*-ta*「卵を産む」、*-langanza*「修理する」の完結語幹は、上のどのタイプにも当てはまらない不規則な形式となる。以下にこれらの動詞語幹の形式を提示する。*-ijua*「知る」の肯定形での完結語幹の形式は、基本語幹と同様である。否定形では、*-iji* という形式が現れるが、この形式から推測される、\**-ija* という形式の基本語幹は存在しない。*-langanza*「修理する」には *-langamza* という異形態が存在する。どちらの異形態を用いるかは、話者によって異なるが、基本語幹 *-langamza* に対応する完結語幹は *-langamzu* となる。

表 10：不規則な形式の完結語幹

意味	完結語幹	基本語幹	接続語幹
a. 「夜が明ける」	-ch-e	-ch-a	-ch-e
b. 「日が沈む」	-chw-e	-chw-a	-chw-e
c. 「知る」	-iju-a/-ij-i	-iju-a	-iju-e
d. 「卵を産む」	-t-i	-t-a	-t-e
e. 「修理する」	-langanz-i	-langanz-a	-langanz-e

基本語幹、完結語幹、接続語幹という三つの語幹の分布は以下のように記述できる。

• 語幹の分布

- a. 基本語幹： 完結形、接続形以外の活用形と一部の命令形（接頭辞なし、もしくは一人称単数の目的語接辞のみでマークされる場合）
- b. 完結語幹： 完結形
- c. 接続語幹： 接続形と接頭辞でマークされる命令形（一人称単数の目的語接辞のみでマークされる場合を除く）

2.5.7 で派生動詞について述べるが、派生動詞のうち、受動動詞は、完結語幹を持たない。受動動詞の完結形には、基本語幹が現れる。また、多くの借用語動詞は、一つの語幹しかもたず、その語幹が、すべての活用形に現れる。なお、民話中のテキストでは、完結語幹でなくとも、完結形であれば、語幹に PFV という「完結」を示すグロスを付す。また、-ja「来る」には上記の三つの語幹に加えて、njo という形式の命令語幹がある。この命令語幹は、（接頭辞のない）命令形に現れる。なお、-leta「もたらす」は例外的に、接頭辞のない命令形でも、接続語幹が現れる。これら以外の動詞では、命令形に基本語幹や接続語幹が現れるが、そうした動詞についても命令形であれば、IMP という命令を示すグロスを付す。

動詞語幹の中には、無意味形態素 *ku-* を伴った異形態が存在するものがある。この *ku-* でマークされるのは、一音節語幹と融合母音語幹（初頭母音が直前の形態素末の母音とサンディを起こすタイプの語幹）である。①目的語接辞がない、②語幹の直前に特定の接辞（AM 接辞-cha-, -na-, -me-, -mena-, -li-, -nge-, -a-、準体言接辞）が現れる、という条件が満たされた場合、*ku-* を伴った異形態が現れる。また、一音節語幹と、-enda「行く」、-isa「終える、終わる」、-aza「始める、始まる」は、動詞に同一節内に属する別の要素が後続する場合、随意的にこの *ku-* は脱落する。

## 2.5.4 極性

動詞の定形では、基本的に否定極性は *ha-* という接頭辞で表される。本稿ではこの接頭辞 *ha-* を否定接辞 1 と呼ぶ。主語が一人称単数、二人称単数、三人称単数の場合は、主語との一致、否定極性はかばん形態素で表される。それぞれの形式は *si-*, *hu-*, *ha-* となる。*-na-* 「未完結」、*-cha-* 「未実現」、完結語幹は否定接辞 1 と共起することができる。*-me-* 「起動」、*-mena-* 「起動進行」は否定接辞 1 と共起できない。*-li-* 「完了否定」、*-ja-* 「起動否定」は義務的に否定接辞 1 と共起する。完結形に否定接辞が現れる場合、「～しなかった」「まだ～していない」という意味にはならず、「(これから)～しない」という意味になる<sup>16</sup>。完結の肯定は完結形によって表されるが、完結の否定は、AM 接辞の *-li-* 「完結否定」で表される。

非定形の否定極性は *-si-* という接頭辞で表される。本稿ではこの接頭辞を否定接辞 2 と呼ぶ。接続形では AM 接辞 *-ka-* と否定接辞 2 は共起できない。主語準体言形、準体言形ともに、否定接辞 2 と共起できる AM 接辞は *-cha-* 「未実現」のみである。主語準体言形、準体言形には、否定接辞 2 はあるが、AM 接辞がなく、否定極性だけ表され、アスペクトやムードが表されない形式が存在する。なお、主語準体言形や準体言形における、未実現以外の否定極性は、完結の AM 接辞でマークされたコピュラ動詞 *-wa* の主語準体言形や準体言形に否定の基本形が後続することにより表される。

## 2.5.5 AM 接辞、語幹、否定接辞の共起関係

以下に、定形、主語準体言形、準体言形における AM 接辞、語幹、否定接辞の共起関係をまとめる。

表 11：定形における AM 接辞、語幹、否定接辞の共起関係

	AM 接辞	語幹	否定接辞との共起
未完結	<i>-na-</i>	基本語幹	可
未実現	<i>-cha-</i>	基本語幹	可
完了	<i>-me-</i>	基本語幹	不可
起動	<i>-mena-</i>	基本語幹	不可
完結否定	<i>-li-</i>	基本語幹	義務
完了否定	<i>-ja-</i>	基本語幹	義務
完結	無	完結語幹	可

<sup>16</sup> ただし *ijua* 「知る」と *goma* 「できる」の完結形が否定接辞と共起する場合は、単に「知らない」、「できない」という意味になる。



表 12：主語準体言形と準体言形における AM 接辞、語幹、否定接辞の共起関係

	AM 接辞		語幹		否定接辞との共起	
	主語準体言	準体言	主語準体言	準体言	主語準体言	準体言
未完結	-na-	-na-	基本語幹	基本語幹	不可	不可
未実現	-cha-	-cha-	基本語幹	基本語幹	可	可
完了	-ne-	-me-	基本語幹	基本語幹	不可	不可
起動	-nena-	—	基本語幹	—	不可	—
完結否定	—	—	—	—	—	—
完了否定	—	—	—	—	—	—
完結	-a-	-∅-	基本語幹	基本語幹	不可	不可

### 2.5.6 人称接辞

動詞活用形に現れる人称接辞として、主語接辞、目的語接辞、主語準体言接辞、準体言接辞がある。これら四つは、一致する項が同一節内に必ずしも現れる必要がないという点で共通している。これは、四つの人称接辞が、一致を示すだけでなく、代名詞的な機能も有しているためであると考えられる。

主語接辞は、主語の主名詞の人称もしくは名詞クラスに一致する接頭辞で、主語接辞のロットがある活用形では概ね義務的に現れる。現れないのは、定形でかつ、主語が一人称単数、AM 接辞が *-na-*「未完結」、*-nge-*「反実仮想」の場合、あるいは、同様に主語が一人称単数で、AM 接辞なしの *-na*「所有」や後述するコピュラ *-ngali* が述語となる場合である<sup>17</sup>。定形で主語が一人称単数、アスペクト・ムードが未実現の場合、分析的な *N-cha-* という形式だけでなく、融合的なかばん形態素 *ch<sup>h</sup>a-* が現れることもある。また、主語が一人称単数でアスペクト・ムードが継起・条件の場合も、*N-ka* という形式だけでなく、*ha-* というかばん形態素で現れることがある。二人称単数と三人称単数の主語接辞は、定形ではそれぞれ *ku-*, *ka-*、非定形では *u-*, *a-* となる。

目的語接辞は、目的語の主名詞の人称もしくは名詞クラスに一致する接頭辞で、目的語があっても現れない場合がある。目的語が二人称複数の場合、目的語接辞のロットには、二人称単数の目的語接辞と同形の *-ku-*、三人称単数の目的語接辞と同形の *-m-*、三人称複数の目的語接辞と同形の *-wa-* のいずれかが現れ、それに加えて、語幹の後ろに聞き手が複数であることを表す接語 *=ni* が現れる。目的語接辞のロットには、再帰接辞 *-ji-* も現れうる。

主語準体言接辞は、*m-/mw-* という形式である。*mw-* という形式は AM 接辞が *-a-* の場合にのみ現れる。それ以外の環境では *m-* という形式である。主語準体言接辞は、1 クラスの名詞、

<sup>17</sup> 一見すると、後続する形態素の初頭音が鼻音の場合、*N-* という一人称単数の主語接辞は脱落するという形態音韻規則が存在するようにも思われる。しかし、準体言形では、AM 接辞が *-na-* の場合でも、必ず一人称単数の主語接辞 *N-* は現れる必要があり、そのような形態音韻規則では、一人称単数の主語接辞が現れないことを説明できない。

一人称単数、二人称単数、三人称単数の人称代名詞と一致する。

準体言接辞は、一致する主名詞<sup>18</sup>の名詞クラスに応じて異なる形式になる。準体言接辞の形式は概ね、拘束代名詞と同形だが、準体言接辞には拘束代名詞と異なり、1クラスに *ye~yo* という異形態が存在する。この二つは AM 接辞- $\phi$ -でマークされる場合に現れる。

以下に、主語接辞、目的語接辞、準体言接辞を提示する。融合母音語幹の前に現れてサンディが生じた場合の形式は以下には挙げない。詳しくは Racine-Issa (2002: 79-91) を参照されたい。なお、本稿では、サンディにより生じた母音は、便宜上語幹部分に含めて提示する。

表 13：主語接辞と目的語接辞の形式

	主語接辞	目的語接辞	準体言接辞
1SG	<i>nyi~N</i> <sup>19</sup>	<i>nyi/N</i>	—
1PL	<i>tu</i>	<i>tu</i>	—
2SG	<i>ku~u</i>	<i>ku</i>	—
2PL	<i>ṁ~mu</i> <sup>20</sup>	<i>ku~ṁ/mu~wa</i>	—
3SG/G1	<i>ka~ke</i> <sup>21</sup> ~ <i>a</i>	<i>ṁ~mu</i> <sup>22</sup>	<i>e~ye~yo</i>
3PL/G2	<i>wa~we</i>	<i>wa</i>	<i>o</i>
G3	<i>u</i>	<i>u</i>	<i>o</i>
G4	<i>i</i>	<i>i</i>	<i>yo</i>
G5	<i>li</i>	<i>li</i>	<i>lyo</i>
G6	<i>ya</i>	<i>ya</i>	<i>yo</i>
G7	<i>ki</i>	<i>ki</i>	<i>cho</i>
G8	<i>vi</i>	<i>vi</i>	<i>vyo</i>
G9	<i>i</i>	<i>i</i>	<i>yo</i>
G10	<i>zi</i>	<i>zi</i>	<i>zo</i>
G15	<i>ku</i>	<i>ku</i>	<i>ko</i>
G16	<i>va~ve</i>	<i>va</i>	<i>vo</i>

<sup>18</sup> 実際に現れるかどうかは別として、多くの場合、準体言接辞と一致する名詞が存在すると考えられる。しかし、準体言接辞と一致する主名詞を仮定することができない場合もある（例：5クラス「理由」、8クラス「様態」「時」）。

<sup>19</sup> 一人称単数の主語接辞は、子音で始まる語幹や目的語接辞、否定接辞 2-*si*-が後続する場合、*nyi*-と *N*-の自由交替が容認される。筆者の観察の限り、後続する形態素の初頭音が *w, y* 以外の場合、*N*-で現れることが多い。AM 接辞-*cha*-, -*me*-, -*mena*-, -*ka*-が後続する場合は、義務的に *N*-となる。目的語接辞は、子音で始まる語幹が後続する場合、義務的に *N*-となる。

<sup>20</sup> 非融合母音語幹が後続する場合、*mu*-となる。子音で始まる形態素が後続する場合、*ṁ*-と *mu*-は自由交替する。

<sup>21</sup> 三人称単数主語接辞の *ke*-という異形態は、AM 接辞-*me*-が後続する場合に現れる。三人称複数の *we*-、6クラスの *ye*-、16クラスの *ve*-も同様の環境で現れる。

<sup>22</sup> 後続する語幹の初頭音が子音の場合、*ṁ*-となる。非融合母音語幹が後続する場合、*mu*-となる。

	主語接辞	目的語接辞	準体言接辞
G18	<i>m~mu</i> <sup>23</sup>	<i>m~mu</i>	<i>mo</i>

### 2.5.7 派生動詞

マクンドゥチ方言では、他の多くのバントゥ諸語と同様に、語根に拡張接尾辞が付加されることで、派生動詞が形成される。この拡張接尾辞を伴うことにより、「受動 (passive)」「適用 (applicative)」「使役 (causative)」「状態 (stative)」「反転 (reversive)」「相互 (associative)」などの意味が付加される。拡張接尾辞を含んだ語幹は、[語根－拡張接尾辞－末母音] という形式になる。拡張接尾辞の形式は以下の通りである。

• 拡張接尾辞の形式 (Racine-Issa 2002: 92–102)

受動：-w-, -lw-, -ligw-, -legw-, -igw-, -egw-

適用：-i-, -e-, -li-, -le-

使役：-z-, -iz-, -ez-, s, -ish-, -esh-

状態：-ik-, -ek-

反転：-u-

相互：-an-

傾向として、*l*を伴った形式(受動、適用)は、語根末が母音の場合現れる。*i*と*e*の交替(受動、適用、使役、状態)は、語根に含まれる母音が*i, u, a*か*e, o*かによる。それ以外の違いは語彙の特性によるものと考えられる。また、拡張接尾辞が複数現れることもある。例えば、拡張接尾辞が二つ現れる場合、適用+受動、適用+相互、使役+適用、使役+相互、反転+受動、反転+適用、反転+使役、反転+相互、反転+状態、相互+使役、相互+適用、状態+相互というパターンがある (Racine-Issa 2002: 102–105)。

なお、民話中で派生動詞が現れる場合、語幹を分析した形では提示しない。

### 2.5.8 コピュラ動詞-wa について

コピュラ動詞-wa には、他の動詞にはないテンスやアスペクトを表す活用形がある、完結に活用した場合(定形、主語準体言形、および準体言形)、他の活用形と異なる特殊な機能をもつ、助動詞的用法があるという、三つの特徴がある。以下でその三点について説明する。

コピュラ動詞-wa は、特殊な屈折パラダイムをもっており、特殊な活用形は、補充形で実現される<sup>24</sup>。以下にその補充形を挙げる。

<sup>23</sup> 後続する形態素が母音で始まる場合、*mu*となる。後続する形態素が子音で始まる場合、*mu*と*m*は自由交替する。

<sup>24</sup> -*evu*と-*ngali*は、他のコピュラ動詞-waの活用形と、意味だけでなく、必ず後続するコピュラ補語を必要とする、場所を表す拘束代名詞でマークされることができるといいう特徴を共有しており、このことを理由に、コピュラ動詞の補充形とみなすことができる。

- コピュラ動詞の補充形

- evu* 「過去」

- ngali* 「持続 (persistent)」

- li*<sup>25</sup>

まず、-*evu* は過去を表す形式である。他の動詞には、過去を示す活用形は存在しない。この -*evu* は、主語が二人称単数、三人称単数の場合、動詞の定形に現れる主語接辞でマークされる。-*evu* も融合母音語幹と同様に、サンディが生じるタイプの形態素である。-*ngali* では、「まだ～である」という持続 (persistent) が表される。-*ngali* をマークする主語接辞は、主語が一人称単数の場合現れない。二人称単数、三人称単数の場合は、非定形に現れる *u-*, *a-* が現れる。-*li* は-*wa* の完結形に対応する否定形と、準体言中に現れる。完結形に対応する否定形は、[否定接辞 1-主語接辞-*li*] という形式で、「～にいない」「～でない」といった意味を表す。なお、2.4.3 で述べた通り、コピュラ動詞-*wa* の完結形に 15, 16, 18 クラスの拘束代名詞が後続した [主語接辞-*wa*-拘束代名詞] という形式は、「そこにいる」というような意味を表すが、これに対応する否定形では、-*li* は用いられず、[否定接辞 1-主語接辞-拘束代名詞] という形式になる。また、-*li* は、コピュラ動詞が準体言内の主動詞となる際にも現れる。-*li* が現れるのは、準体言の主動詞となるコピュラが AM 接辞でマークされず、準体言接辞-*vyo-*, -*ko-*, -*vo-*, -*mo-* でマークされる場合である。この際の形態素の順序は、準体言形とは異なり、[主語接辞-*li*-準体言接辞] となる。

コピュラ動詞-*wa* には、主語の状態変化を示す用法と主語の場所を示す用法がある。-*wa* が AM 接辞でマークされる場合は、基本的にその AM 接辞に応じたアスペクトやムードに関する情報が表される。しかし、完結形や、主語準体言及び主語準体言中で AM 接辞-*a-*, -*ϕ-* 「完結」でマークされる場合は、単にコピュラ節を形成する機能のみを担う。コピュラが完結に活用した場合、コピュラに後続するのは、①主語の性質や状態を示す名詞や形容詞、②主語の所有者を表す所有詞か属辞でマークされた項、③主語の存在する場所を示す名詞である。

コピュラ動詞には、テンス・アスペクト・ムードに関する情報を付加する助動詞的用法もある。この用法ではコピュラ動詞としての機能は表されない。形式的には、-*wa* の基本形や、-*evu*, -*ngali* に動詞の活用形が後続する。-*wa* をマークする AM 接辞としては、-*cha-*, -*na-*, -*me-*, -*mena-*, -*ka-*, -*nge-* が確認されている。-*wa* の完結形には、他の動詞は後続しない。後続する動詞は、基本的に定形である。先行するコピュラ動詞が-*evu*, -*ngali* の場合には継起条件形も後続する。

また、コピュラ動詞-*wa* の主語準体言形や準体言形に、他の動詞の定形が後続することにより、準体言が形成される。-*wa* が、他の AM 接辞でマークされる場合は、その AM 接辞によって表されるアスペクトやムードが準体言に付加されるが、-*a-*, -*ϕ-* 「完結」でマークされる場合は、アスペクトやムードに関する情報が準体言に付加されることはない。つまり、-*a-*, -*ϕ-* でマークされる-*wa* は、準体言を形成する機能のみを担っていると考えられる。

<sup>25</sup> -*li* はサバキ祖語の\**li-* 'be' (Nurse & Hinnebusch 1993: 649) に遡ると考えられる。

## 2.5.9 -na「所有」について

所有を表す *-na* も他の動詞とは異なるパラダイムを有する。まず所有の *-na* は *-na*-「未完結」、*-mena-*「起動進行」、*-a-*、*-ø-*「完結」ではマークすることができない<sup>26</sup>。また、テンス・アスペクト・モードに関する情報を付加する助動詞のコピュラが現れた場合、他の動詞では、2.5.6 で述べた場合を除き主語接辞が義務的に現れるのに対して、*-na* では現れないことがある。また、*-na* では、前述のとおり、拘束代名詞で所有物との一致を標示されるという点も他の動詞と異なる。AM 接辞のない準体言では [*m-na*]、[主語接辞 *-na* 準体言接辞]<sup>27</sup> という形式になる点も他の動詞とは異なる。

この他の所有の *-na* の特徴として、まず、定形で主語が一人称単数の場合、主語接辞が現れないということが挙げられる。また 15、16、18 クラスの主語接辞で *-na* がマークされた場合、*-na* に後続する名詞が指示する対象が存在することが表される。

## 2.6 語境界について

### 2.6.1 接語

それ自体が単独で生起しないことと、ホストとなる語はそれなしでも成立しうること、ホストとの間にポーズがないことを基準に接語という単位を設定することにする。この基準に当てはまるものとして、後接語 (proclitic) : 受動文の動作主標識 *nyi=*、属辞、否定コピュラ *si=*、*ja=* 「～のように」、背景標識 *njo=*<sup>28</sup>、共格標識 *na=*、前接語 (enclitic) : 指示詞弱化形、所有詞の弱化形、程度の低さを表す *=ga* 「ちょっと、少し」、聞き手が複数であることを示す *=ni* が挙げられる。*nyi=* と属辞の後には、準体言を除く名詞類が現れうる。*si=*、*ja=* の後には名詞類が現れうる。*njo=* のあとに典型的に現れるのは、名詞類だが、名詞化されていない動詞の活用形も現れる。*na=* は「～も、～とともに」という 随伴だけでなく、二つの要素をつなぐ機能も有しており、項だけでなく、節もこの二つの要素になることがある。このため、*na=* には名詞類だけでなく、名詞化されていない動詞の活用形も後続する。指示詞の弱化形、*=ga*、*=ni* はホストは、特定の語類に属するものに限定されない。*nyi=* はホストの初頭音が *w*、*y* 以外の子音の場合、しばしば *N=* という形式に弱化する。*=ga* はホストの後に現れることが一般的だが、動詞の基本形では、AM 接辞と語幹の間にも現れうる (例: *tu-na=gá-soma* (1PL.SM-IPFV=bit-study) 「我々はちょっと勉強している」)。

### 2.6.2 動詞連続

*-ja* 「来る」、*-enda* 「行く」、*-isa* 「終わる」、*-aza* 「始まる」には、接頭辞を伴わない無標の動詞語幹 (あるいは目的語接辞でマークされた動詞語幹) が後続する。この動詞連続の間に

<sup>26</sup> 話者によっては *-na*-「未完結」*-mena-*「起動」、*-ø-*「完結」で所有の *na* をマークする形式を容認するが、実際に使われることはないと考えられる。

<sup>27</sup> 準体言化される項が主語 (所有者) の場合に限り、他の動詞と同じ [主語接辞 *-na* 準体言接辞 *-na*] という形態素順も容認される。

<sup>28</sup> 背景情報を取り立てる際に用いられる。

は、自立語を挿入することはできない。挿入できるのは、接語の=ga くらいである。AM 接辞と語幹の間にも、自立語は挿入することはできないが、=ga は挿入することはできる。このことから、本稿では、動詞連続における二つの動詞語幹のつながりは、AM 接辞と語幹と同程度のものとみなし、二つの動詞語幹の間には、AM 接辞と語幹の間と同様に、ハイフンを付すことにする。

-ja, -enda, -isa, -aza は無意味形態素 ku-を伴いうる動詞だが、-ja と -enda は、他の動詞の語幹が後続する際は、この ku-が脱落する形式もよく観察される。また、-ja, -enda の直後に現れる動詞語幹は必ず無標でなければならないが、-isa, -aza のあとには無標のものだけでなく、不定形も現れる。

-ja が前部に現れる動詞連続では、元の「来る」という意味が希薄化している活用形がある。-ja が AM 接辞-na-「未完結」、-cha-「未実現」、-ka-「継起条件」でマークされる場合は、未来<sup>29</sup>、AM 接辞-li-「完結否定」、-a-「完結（主語準体言）」、-∅-「完結（準体言）」でマークされる場合は、過去を表す。

### 2.6.3 所有の-na、及びコピュラ動詞-wa と後続する要素の関係

2.5.8 節で、所有表現について述べたが、スワヒリ語にも同様の所有表現が存在する。スワヒリ語の正書法では、この所有の-na と後続する所有物を表す表現は分かち書きされる。本稿でも、スワヒリ語の慣例に従って、-na と所有物を表す名詞を分かち書きする。ただし、マクンドゥチ方言では、この二つの間に、別の自立語を挿入することができない。このことを踏まえると、所有の-na と後続する名詞との間には、語境界と呼ぶほどの境界はないと考えられる。

また、コピュラ動詞-wa についても、非助動詞的に用いられる場合、補語との間に他の自立語を挿入することはできないが、本稿では、-wa と補語は分かち書きする。

## 3 民話資料

### 3.1 民話資料の概要

民話資料は二編ある。この二編は連続して語られており、以下のテキスト中には、民話の本編だけでなく、語りの冒頭と最後、二編の民話の間に録音された筆者との会話も含まれている。

この民話の語り部は、10 歳前後から 20 歳前後まで、マクンドゥチ郡を離れ、ウングジャ島中部のトゥングウのおじ夫妻の下で暮らしている。おじ夫妻はともにマクンドゥチ方言話者である。この二編の民話は、語り部がトゥングウで暮らしていた時に、お婆から口頭で伝えられたものである。なお、この語り部は読み書きはほとんどできない（数字を読むことはできるようである）。

二編の民話ともに、小鬼 (*jimwi*) が女性に化けて、その女性の夫をだますという話である。

<sup>29</sup> -ja の接続形に、他の動詞の接続形が後続する場合も、未来が表される。

この民話の録音の直前に、この言語のプロソディを調べるために「彼はカボチャが欲しい」という文を繰り返し語り部に発音してもらったことが、語り部が小鬼の登場する民話を話してくれたきっかけとしてある。小鬼の好物はカボチャである。

言語的に特筆すべき点としては、登場人物のセリフ及び歌におけるスワヒリ語へのスイッチ ((21) (22) (23) (38) (39) (40) (102) (103) (104) (127) 等) と、小鬼のセリフにおける歯茎音の口蓋化 ((147) (149) (155) (173)) が挙げられる。スワヒリ語へスイッチしていることは、プロソディ (語の次末音節の卓立)、スワヒリ語の語彙の使用、スワヒリ語特有の屈折形から見て取れる。テキスト中にみられるスワヒリ語の語彙とスワヒリ語の屈折形として以下のようなものが挙げられる。

- スワヒリ語の語彙

*teleṃka* 「降りる」、*penda* 「好む」、*pendeza* 「好ませる (使役)」、*taka* 「欲する」、*mimi* 「私」  
*weza (wezi)* 「できる」

- スワヒリ語の屈折形

*wangu* 「私の (1 クラス所有詞)」 (cf. マクンドゥチ *yangu*)、*si-wezi* 「私はできない」 (cf. マクンドゥチ *si-gomo*)、*ku-koga* 「沐浴すること (不定形)」 (cf. マクンドゥチ *k-oga*)、*na-ona* 「私は見る (感じる)」 (cf. マクンドゥチ *na-kona*)、*la=* 「の (5 クラス属辞)」 (cf. マクンドゥチ *lya=*)、*ka-tw-ambia* 「彼女は我々に言った」 (マクンドゥチ対応表現なし)

上に挙げたもののうち、スワヒリ語の動詞の活用形について簡単に述べておく。まず、*si-wezi* の *wezi* という語幹の形式では、スワヒリ語で現在否定を表す際の語幹末母音の変化  $a \gg i$  がみられる。この語形変化はマクンドゥチ方言にはない。*ku-koga* では、*koga* 自体が語幹として分析され、それに *ku-* という不定形接頭辞が付加されている。マクンドゥチ方言では「沐浴する」という動詞の不定形は *k-oga* という形式である。*na-ona* の *ona* という動詞は、未完結の *-na-* でマークされる場合、マクンドゥチ方言では必ず、無意味形態素 *ku-* を伴い *k-ona* という形式になる。無意味形態素がない形式というのはマクンドゥチ方言の形式ではない。*ka-tw-ambia* の *ka-* という接頭辞は、三人称単数と完結を示すスワヒリ語のかばん形態素である。この形態素はマクンドゥチ方言にはない。

小鬼のセリフの中で口蓋化しているとみられる語彙は以下の通りである。( ) 内には、口蓋化していない語形を挙げる。なお、*yamaa*, *maia* にみられる変化は口蓋化ではないが、まとめて提示することにする。

- 口蓋化している語彙

*yamaa (jamaa)* 「仲間」、*uchamu (utamu)* 「甘さ」、*nye (je)* 「何 (疑問標識)」、*kichu (kit<sup>h</sup>u)* 「物」、*ka-chw-ambia (ka-tw-ambia)* 「彼女は我々に言った」、*maia (maria)* 「マリア (人名)」、*mcho-ni (ṃto-ni)* 「川で」、*chw-enja (tw-enda)* 「我々は行く」、*m<sup>h</sup>konyo (ṃkono)* 「手」、*ya (la)* 「の (5 クラス属辞)」、*chu-lye (tu-lye)* 「食べよう」

本稿に掲載したもの以外でも、この語り部の語る民話の小鬼のセリフでは、一貫してこうした口蓋化が観察される。おそらく、小鬼というキャラを特徴づけるために、口蓋化が用いられていると考えられる。

話者と録音に関する情報は次の通りである。

- 収録日：2016年9月18日
- 収録場所：話者の自宅の軒先（マクンドゥチ郡マタズィ集落）
- 収録時間：14分3秒
- 話者：Zainabu Khatibu Bonde 氏、収録時推定 60代前半、女性、マタズィ集落出身
- 隣席者：Zainabu 氏の娘（10代前半）、本稿の筆者

民話のテキストは一行目に形態素境界付きの音韻表記、二行目にグロス（形態素ごとの意味・文法情報）、三行目に日本語訳をつけている。グロスに用いている略号については、稿末の略号一覧を参照されたい。一行目中のピリオドは、ピリオドの前後に明らかなポーズがあることを示す。このポーズは、文境界とは必ずしも一致しない。聞き取れなかった部分には ? を記している。二行目のピリオドは、一つの形態素が複数の意味や機能を持つことを示す。形態素が現れないことが形態音韻論的、もしくは形態論的に説明できるもの、かばん形態素については、複数の機能をグロス間にコロンを付すことで示す。マクンドゥチ方言のある一つの語に対応する英語が複数の語から成る場合は、英語の語と語の間に下線を付している。三行目の (?) は日本語訳が不確かであることを示す。また、全体に丸かっこが付されているものは、筆者の発話である。

### 3.2 民話資料テキスト

(1) *hadithi gani.*

story what\_kind

「どんなお話かって？」

(2) *hadithi ivi.*

story which

「どのお話かって？」

(3) *(ku-na-goma.)*

(2SG.SM-IPFV-be\_able)

(「できますか。」)



- (4) *ee na-i-goma.*  
 INT IPFV:1SG.SM-G9.OM-be\_able  
 「ええ、できる。」
- (5) *i-si-chukue muda.*  
 G9.SM-NEG-take span  
 「(お話は) 時間がかからないほうがいい？」
- (6) *haya tw-ende.*  
 FIL 1PL.SM-go.SUBJ  
 「わかった、行きましょう (始めましょう)。」
- (7) *ny-imbe=vyo hea.*  
 1SG.SM-sing.SUBJ=DEM.MED.G8 but  
*ny-imbe=vyo. na-kwimba=vyo.*  
 1SG.SM-sing.SUBJ=DEM.MED.G8 IPFV:1SG.SM-sing=DEM.MED.G8  
 「だけど、歌ってもいい？ 歌ってもいいの？ 歌いますよ。」
- (8) *paukwa.*<sup>30</sup>  
 tale\_opening  
 「お話を始めます。」
- (9) (*pakawa.*)  
 reply\_to\_tale\_opening  
 「始めて。」
- (10) *a-li-ondokea.*<sup>31</sup> *makame wa=makame.*  
 3SG.SM-PST-leave.APPL PN of.G1=PN  
 「マカメの子、マカメというものがおりました。」

<sup>30</sup> *paukwa* は物語を始めるときの決まり文句である。聴衆は *pakawa* と応答する。

<sup>31</sup> この語り部の民話はほぼ必ず、*a-li-ondokea* という動詞が冒頭に現れる。この動詞の活用形にみられる *-li-* は、スワヒリ語の「過去」を表す接頭辞である。

- (11) *makame wa=makame yulya. a-ka-wa.*  
 PN of.G1=PN DEM.DIST.G1 3SG.SM-CONS/COND-COP  
*ka-wa mji ka-wa kiambo-ni vao.*  
 3SG.SM-COP.PFV town.HESIT 3SG.SM-COP.PFV village-LOC their.G16  
 「そのマカメの子、マカメは、自分の街、自分の村におりました。」
- (12) *kazi yake a-k-enda a-ka-rudi mwitu-ni.*  
 work his/her.G9 3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-come\_back forest-LOC  
 「彼は仕事で、森へ行ったり来たりしていました。」
- (13) *mwitu-ni uko k-enda a-ka-kat<sup>h</sup>a majengo.*  
 forest-LOC DEM.MED.G15 3SG.SM-go:IPFV 3SG.SM-CONS/COND-cut buildings  
 「その森に、彼は建物を壊しに行きます。」
- (14) *siku moja. msitu-ni kulya.*  
 one day.G9 forest-LOC DEM.DIST.G15  
 「ある日、その森でのこと。」
- (15) *makame wa=makame ha-na mke.*  
 PN of.G1=PN 3SG.SM.NEG-POSS wife  
 「マカメの子、マカメには妻がいません。」
- (16) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた？」<sup>32</sup>
- (17) *a-φ-vyo-wa ha-na mke.*  
 3SG.SM-PFV-G8.NMLZ-COP 3SG.SM.NEG-POSS wife  
*a-ka-m-ona bibi ka-kaa juu ya=ujiti.*  
 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-see lady 3SG.SM-sit.PFV above of.G9=tree  
 「彼に妻がいないときに、彼は、木の上に座っている女性を目にしました。」

<sup>32</sup> この表現は、会話の最中によく観察される。確認のために用いられる定形的な表現と考えられる。なお、スワヒリ語では、マクンドウチ方言の *ku-sikii* の直訳にあたる *u-me-sikia* (2SG.SM-PFV-hear) 「あなた聞いた？」という表現がよく使われる。

- (18) *juu ya=ujiti bibi mwanamke ka-na-ji-chana nywele.*  
 above of.G9=tree lady woman 3SG.SM-IPFV-REFL-separate hair  
 「木の上で、女性は髪をとかしています。」
- (19) *a-ka-sema uyo+ko njo=mpenzi wangu.*  
 3SG.SM-CONS/COND-tell DEM.MED.G1+DEM.MED.G15 BGR=lover my.G1  
 「彼は言いました。『あそこにいる人こそ、私の愛する人だ。』」
- (20) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた？」
- (21) *a-ka-mw-ambia bibi telemka basi.*  
 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-tell lady get\_down.IMP FIL  
 「彼は言いました。『お嬢さん、ちょっと降りてきてください。』」
- (22) *telemka bibi yulya bibi*  
 get\_down.IMP lady DEM.DIST.G1 lady  
*a-ka-shuka kulya juu ya=ujiti.*  
 3SG-CONS/COND-get\_down DEM.DIST.G15 above of.G9=tree  
 「『降りてきてください、お嬢さん。』その女性は、その木の上から降りてきました。」
- (23) *a-ø-vyo-kuja valya ch<sup>h</sup>i-ni*  
 3SG.SM-PFV-G8.NMLZ-come DEM.DIST.G16 ground-LOC  
*aa bibi na-ku-penda. mwanamke u-me-ni-pendeza.*  
 INT lady IPFV:1SG.SM-2SG.OM-love woman 2SG.SM-PFV-1SG.OM-love.CAUS  
*mwanamke na-ku-taka. mpenzi wangu.*  
 women IPFV:1SG.SM-2SG.OM-want lover my.G1  
*u-we mwanamke wangu. mwanamke mpya.*  
 2SG.SM-COP.SUBJ woman my.G1 woman new.G1  
*na-ku-taka yulya jimwi.*  
 IPFV:1SG.SM-2SG.OM-want DEM.DIST.G1 genie  
 「(女性が) そのこの地面に降りてきたとき、『おお、お嬢さん、あなたが好きです。女よ、あなたのことが気に入りました。女よ、あなたが欲しい。私の愛する人よ、あなたは私の女、新しい女になるべきだ。あなたが欲しい。』そいつ (女) は小鬼です。」

(24) *ku-sikii.*

2SG.SM-hear.PFV

「聞いた？」

(25) *makame wa=makame yulya.*

PN of.G1=PN DEM.DIST.G1

「そのマカメの子マカメ。」

(26) *kumbe yulya mt<sup>hu</sup> a-na-e-mw-ambia.*

FIL DEM.DIST.G1 person 3SG.SM-IPFV- G1.NMLZ-3SG.OM-tell

*si=mt<sup>hu</sup> yulya.*

NEG=person DEM.DIST.G1

「実は、その（マカメが）話しかける人は人ではないのです。」

(27) *hea ye ka-na-j-ona mt<sup>hu</sup>.*

but 3SG 3SG.SM-IPFV-REFL-see person

「だけど、自分では人だと思い込んでいるのです。」

(28) *kumbe namba njo=jimwi. yulya mwanamke.*

FIL probably BGR=genie DEM.DIST.G1 woman

「おそらく小鬼だったのです。その女性は。」

(29) *ku-sikii.*

2SG.SM-hear.PFV

「聞いた？」

(30) (*jimwi ka-na-j-ona mt<sup>hu</sup> .*)

(genie 3SG.SM-IPFV-REFL-see person)

(「小鬼は自分のことを人だと思い込んでいる？」)

(31) *ee ka-na-j-ona mt<sup>hu</sup> yulya mt<sup>hu</sup>*

INT 3SG.SM-IPFV-REFL-see person DEM.DIST.G1 person

*ka-na-m-ona yulya hamba mt<sup>hu</sup> kumbe si=mt<sup>hu</sup> .*

3SG.SM-IPFV-3SG.OM-see DEM.DIST.G1 like person FIL NEG=person

「そう、(小鬼) は自分のことを人だと思っている。その人 (マカメ) はそいつ (小鬼) を人のように見ているけれど、実は人ではない。」

- (32) *ji-jimwi.*  
 AUG-genie  
 「鬼。」
- (33) (*njo=jimwi.*)  
 (BGR=genie)  
 (「小鬼?」)
- (34) *ee.*  
 INT  
 「そう。」
- (35) *kumbe vilya            ji-jimwi    ama ji-shetani.*  
 FIL    DEM.DIST.G8 AUG-genie or    AUG-devil  
 「鬼かもののけか。」
- (36) *maana ilyo            jimwi hamba shetani.*  
 so    DEM.MED.G5 genie like    devil  
 「つまりその鬼は、もののけのよう。」
- (37) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた?」
- (38) *a-ka-mw-ambia                            mimi si-wezi                            ku-shuka.*  
 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-tell 1SG    1SG.SM.NEG-be\_able.NEG INF-get\_down  
*na-tenda            fupi tu.    mie si-wezi                            kuo            kw-enda.*  
 IPFV:1SG.SM-do short only 1SG 1SG.SM.NEG-be\_able.NEG INF.HESIT INF-go  
 「(その女性は) 言いました。『私は降りられないわ。』短い(話)をしてるだけだよ。『私は行くことができないわ。』」
- (39) *ka-na-mw-ambia            tw-ende            nyumba-ni kwangu.*  
 3SG.SM-IPFV-3SG.OM-tell 1PL.SM-go.SUBJ house-LOC my.G15  
*bibi N-ø-vyo-ku-penda                            tw-ende            nyumba-ni kwangu.*  
 lady 1SG.SM-PFV-G8.NMLZ-2SG.OM-love 1PL.SM-go.SUBJ house-LOC my.G15  
 「彼は言いました。『私の家に行きましょう。お嬢さん、私はあなたを愛しているのだから(?), 私の家に行きましょう。』」

- (40) *aa mie si-wezi kw-enda aa.*  
 INT 1SG 1SG.SM-be\_able.NEG INF-go INT  
 『『ああ、私は行くことができません。』』
- (41) *a-ka-mw-ambia haya basi*  
 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-tell FIL FIL  
*a-ka-kinga miongo. yulya bibi a-ngie.*  
 3SG.SM-CONS/COND-protect back DEM.DIST.G1 lady 3SG.SM-enter.SUBJ  
 「彼は（女性に）言いました。『わかりました。』彼は、背をむけてかがみました。女性が乗れるように。」
- (42) *ka-mw-eleke=yo.*  
 3SG.SM-3SG.OM-carry.PFV=DEM.MED.G1  
 「彼女を彼はおぶったんだよ。」
- (43) *a-ka-ngia kulya miongo-ni.*  
 3SG.SM-CONS/COND-enter DEM.DIST.G15 back-LOC  
 「彼女はその背中に乗りました。」
- (44) *a-k-enenda a-k-enenda a-k-enenda*  
 3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-go  
*na=ṁzigo wake miongo-ni.*  
 COM=burden his/her.G3 back-LOC  
 「彼は背中に荷物（小鬼）を背負ってどんどんと進みました。」
- (45) *hata ku-fika mahaa a-ka-mw-ambia e.*  
 even INF-arrive place 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-tell INT  
 「あるところについて、彼は言いました。」
- (46) *mwanamke vino sasa mie tena N-choko.*  
 woman DEM.PROX.G8 now 1SG then 1SG.SM-be\_tired.PFV  
*maana tu-na-ko-kwenda si=vadogo. N-choko.*  
 so 1PL.SM-IPFV-G15.NMLZ-go NEG=small.G16 1SG.SM-be\_tired.PFV  
 『『女よ、今私は疲れています。我々の行くところは近くはありません。私は疲れています。』』

- (47) *na=tu*                      *na=tu-choke*                      *vivyoy*                      *ki-mgongo~mgongo*.  
 COM=1PL.SM.HESIT COM=1PL.SM-be\_tired.SUBJ DEM.MED.G8 DIM-back~RED

*na=tu-choke*                      *vivyoy*                      *ki-mgongo~mgongo*.  
 COM=1PL.SM-be\_tired.SUBJ DEM.MED.G8 DIM-back~RED

*kw-enda-nyi-twala*                      *kwetu*    *miti*    *mikuu*    *mi-chapia+komba*  
 2SG.SM-go:IPFV-1SG.OM-take our.G15 trees big.G4 G3-leap+galago

*hoo pendo na=moyo*.

INT love    COM=heart

『背中であらう風に休みましよう。背中であらう風に休みましよう。あなたは、ガラゴ<sup>33</sup>が飛び越えるような高い木のある私たちのところに、私を連れに行きます。愛のある心で。』』

- (48) *ku-sikii*.

2SG.SM-hear.PFV

「聞いた？」

- (49) *haya a-k-enenda*                      *a-k-enenda*                      *ha*.

FIL 3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-go INT

「そして、彼はどんとどんと進みました。」

- (50) *he mwanamke N-choka*<sup>34</sup>                      *we. N-choko*                      *we*.

INT woman 1SG.SM-be\_tired 2SG 1SG.SM-be\_tired.PFV 2SG

*mwanamke mie N-choko*.

woman 1SG 1SG.SM-be\_tired.PFV

『女よ、私は疲れています。疲れています。女よ、私は疲れています。』』

<sup>33</sup> サルの種類。夜行性。ブッシュベイビーとも呼ばれる。マクンドウチ郡の集落内にも頻繁に出没する。

<sup>34</sup> 次に完結形の *N-choko* という語形が現れることを考慮すると、この *N-choka* という語形は言い間違いである可能性がある。

- (51) *tu-choke ja=vivyvo ki-ḡgongo~ḡgongo.*  
 1PL.SM-be\_tired.SUBJ like=DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*tu-choke ja=vivyvo ki-ḡgongo~ḡgongo. kw-enda-nyi-twala*  
 1PL.SM-be\_tired.SUBJ like=DEM.MED.G8 DIM-back~RED 2SG.SM-go:IPFV-1SG.OM-take  
*kwetu miti mikuu mi-chapia+komba hee pendo na=moyo. he.*  
 our.G15 trees big.G4 G3-leap+galago INT love COM=heart INT  
 『背中であらう風に休みましよう。背中であらう風に休みましよう。あなたは、ガラゴが飛び越えるような高い木のある私たちのところに、私を連れに行きま  
 す。愛のある心で。』

- (52) *ka-na-mw-ambia njo=pendo li-wa moyo-ni.*  
 3SG.SM-IPFV-3SG.OM-tell BGR=love G5.SM-COP.PFV heart-LOC  
*tu-choke ja=vivyvo.*  
 1PL.SM-be\_tired.SUBJ like=DEM.MED.G8  
 「彼女は彼にこう言っています。『愛は心にある。あらう風に休みましよう。』」

- (53) *he.*  
 INT  
 (小休止)

- (54) *wa-k-enenda wa-k-enenda wa-k-enenda.*  
 3PL.SM-CONS/COND-go 3PL.SM-CONS/COND-go 3PL.SM-CONS/COND-go  
*haya bibi vano njo=vangu. ama vano njo=vetu.*  
 INT lady DEM.PROX.G16 BGR=my.G16 or DEM.PROX.G16 BGR=our.G1  
*ino njo=nyumba yangu.*  
 DEM.PROX.G9 BGR=house my.G9  
 「彼らはどんどん進みました。『はい、お嬢さん、ここそが私のところす。ここそが私たちのところす。これそが私の家す。』」

- (55) *kiji-banda tu cha=ḡgongo. maana ha-na ḡke.*  
 DIM-hut only of.G7=back so 3SG.SM.NEG-POSS wife  
 「棟木ひとつの単なる小さな小屋す。あいうのも、彼には妻がいないから。」



- (56) *tu-choke ja=viyvyo ki-ṁgongo~ṁgongo.*  
 1PL.SM-be\_tired.SUBJ like=DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*tu-choke ja=viyvyo ki-ṁgongo~ṁgongo.*  
 1PL.SM-be\_tired.SUBJ like=DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*kw-enda-nyi-twala kwetu miti mikuu mi-chapia+komba*  
 2SG.SM-go:IPFV-1SG.OM-take our.G15 trees big.G4 G3-leap+galago  
*hoo penda na=moyo.*  
 INT love COM=heart  
 『背中であらう風に休みましよう。背中であらう風に休みましよう。あなたは、ガラゴが飛び越えるやうな高い木のある私たちのところに、私を連れに行きま  
 す。愛のある心で。』
- (57) *ṁpaka yulya bwana a-ka-fwa.*  
 until DEM.DIST.G1 sir 3SG.SM-CONS/COND-die  
 「そのご主人がなくなるまで（そのやうに暮らしました）。」
- (58) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた？」
- (59) *a-ϕ-vyo-kufwa. wat<sup>h</sup>u wa-ka-ngia tena ṁlya nyumba-ni*  
 3SG.SM-PFV- G8.NMLZ-die people 3PL-CONS/COND-enter then DEM.DIST.G18 house-LOC  
 「彼が死んだとき、人々がその家の中に入ってきました。」
- (60) *ee we we we yuno mwezi=o ke-me-kufwa.*  
 INT 2SG 2SG 2SG DEM.PROX.G1 partner=your 3SG.SM-PRF-die  
*u-lawe ṁno mwa=yuno binadamu.*  
 2SG.SM-come.from.SUBJ DEM.PROX.G18 of.G18=DEM.PROX.G1 human  
*ende a-ka a-k-oswe.*  
 go.SUBJ:3SG.SM 3SG.SM-CONS/COND.HESIT 3SG.SM-CONS/COND-wash.PASS.SUBJ  
 『お前さん、お前の連れは死んだんだよ。ここ、この人のところから出なさい。  
 彼は洗われに行かなければならぬんだよ。』

- (61) *tu-k-oshwe* *ja=vivyo* *ki-ṁgongo~ṁgongo.*  
 1PL.SM-CONS/COND-wash.PASS.SUBJ like=DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*tu-k-oshwe* *ja=vivyo* *ki-ṁgongo~ṁgongo.*  
 1PL.SM-CONS/COND-wash.PASS.SUBJ like=DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*kw-enda-nyi-twala kwetu miti mikuu mi-chapia+komba hee pendo na=moyo.*  
 2SG.SM-go:IPFV-1SG.OM-take our.G15 trees big.G4 G3-leap+galago INT love COM=heart  
 『背中であらう風に洗われましよう。背中であらう風に洗われましよう。あ  
 なたは、ガラゴが飛び越えるやうな高い木のある私たちのところに、私を連れに行  
 きます。愛のある心で。』
- (62) *ye ka-na-sema pendo njo=ka*  
 3SG 3SG.SM-IPFV-tell love BGR=3SG.SM.HESIT  
*na-ṁ-penda=yo. basi ny-oswe na=yeye.*  
 IPFV:1SG.SM-3SG.OM-love=DEM.MED.G1 FIL 1SG.SM-wash.PASS COM=3SG  
 『彼女は言いました。『私は彼を愛しています。それは愛です。彼と一緒に私も洗  
 われましよう。』』
- (63) *he haya sasa a-k-oswa*  
 INT FIL now 3SG.SM-CONS/COND-wash.PASS  
*ka-wa mumomo yulya jimwi maungo-ni ha-na-lawa.*  
 3SG.SM-COP.PFV DEM.MED.G18 DEM.DIST.G1 genie body-LOC 3SG.SM.NEG-IPFV-come\_from  
 『彼女は洗われました。小鬼 (女性) は (男の) 体についたままです。離れません。』
- (64) *hata sasa yuno a-vwiswe nguo.*  
 even now DEM.PROX.G1 3SG.SM-dress.PASS.SUBJ clothes  
 『こいつは、服を着せられなければなりません。』
- (65) *shu lawa ṁno weye.*  
 get\_down.HESIT come\_from.IMP DEM.PROX.G18 2SG  
 『ここから離れなさい、お前さん。』
- (66) *hea na=walya wat<sup>h</sup>u na=o wazembe*  
 but COM=DEM.DIST.G2 people COM=PRO.G2 idlers  
*ha-wa-ja-ṁ-piga kigongo tu.*  
 3SG.SM.NEG-PRF.NEG-3SG.OM-hit knock only  
 『しかし、その人々も怠け者で、棒でそいつを打ったりすらしていません。』

- (67) *walya wat<sup>hu</sup> na=o wazembe.*  
 DEM.DIST.G2 people COM=PRO.G2 idlers  
 「その人々、彼らも怠け者だ。」
- (68) *maana wa-nge-mu-ua.*  
 so 3PL.SM-CF-3SG.OM-kill  
 「つまり、そいつを殺していれば。」
- (69) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた？」
- (70) *a-ka-sema a-vwiswe vivyo ki-ḡgongo~ḡgongo.*  
 3SG.SM-CONS/COND-tell 3SG-dress.PASS.SUBJ DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*na=a-vwiswe vivyo ki-ḡgongo~ḡgongo.*  
 COM=3SG.SM-dress.PASS.SUBJ DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*k-enda-nyi-twala kwetu miti mikuu mi-chapia+komba hee pendo na=moyo.*  
 3SG.SM-go:IPFV-1SG.OM-take our.G15 trees big.G4 G3-leap+galago INT love COM=heart  
 『背中であらう風には彼は着せられて。背中であらう風には着せられて。彼は、ガラゴが飛び越えるやうな高い木のある私たちのところに、私を連れに行きます。愛のある心で。』』
- (71) *hata wakinaume we-me-kuja sasa na=a-chukulwe*  
 even men 3PL.SM-PRF-come now COM=3PL.SM-take.PASS.SUBJ  
*ende a-ka-zikwe.*  
 go.SUBJ:3SG.SM 3SG.SM-CONS/COND-bury.PASS.SUBJ  
 「いよいよ、男たちがやってきました。彼は連れ出され、埋められに行きます。」
- (72) *a-ka-chukulwa.*  
 3SG.SM-CONS/COND-take.PASS  
 「彼は連れ出されました。」
- (73) *sasa bwe bibi uka. yuno ḡ<sup>th</sup>u k-enda-zikwa.*  
 now HESIT lady leave.IMP DEM.PROX.G1 person 3SG.SM-go:IPFV-bury.PASS  
 『さあ、お嬢さん、去りなさい。この人は埋められに行きます。』』

- (74) *na=a-zikwe*                      *vivyo*                      *ki-ṁgongo~ṁgongo.*  
 COM=3SG.SM-bury.PASS.SUBJ DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*na=a-zikwe*                      *vivyo*                      *ki-ṁgongo~ṁgongo.*  
 COM=3SG.SM-bury.PASS.SUBJ DEM.MED.G8 DIM-back~RED  
*k-enda-nyi-twala*                      *kwetu*    *miti mikuu mi-chapia+komba*  
 3SG.SM-go:IPFV-1SG.OM-take our.G15 tree big.G4 G3-leap+galago  
*hee pendo na=moyo he.*  
 INT love COM=heart INT  
 『彼は背中であらう風に埋められて。彼は背中であらう風に埋められて。彼は、ガラゴが飛び越えるやうな高い木のある私たちのところに、私を連れに行きます。愛のある心で。』』
- (75) *a-ka-chukulwa*                      *hata*  
 3SG.SM-CONS/COND-take.PASS even  
*ke-me-fiswa*                      *kulya*                      *ji-kaburi-ni.*  
 3SG.SM-PRF-arrive.CAUS.PASS DEM.DIST.G15 AUG-grave-LOC  
 「彼は連れ出され、とうとう墓のところにつきました。」
- (76) *ji-shimo-ni*    *ka-na-tiwa.*  
 AUG-hole-LOC 3SG.SM-IPFV-put.PASS  
 「穴の中に、彼は入れられます。」
- (77) *lilya*                      *jidu-bwana li-ka-lawa*                      *mboon*  
 DEM.DIST.G5 AUG?-sir G5.SM-CONS/COND-come.from ONM  
*li-ka-ruka.*                      *ji-jimwi.*  
 G5.SM-CONS/COND-jump AUG-genie  
 「そのもののけはボーンと出て、飛び上がりました。鬼です。」
- (78) *li-ka-lawa*                      *li-ka-ruka*                      *wat<sup>h</sup>u*  
 G5.SM-CONS/COND-come.from G5.SM-CONS/COND-jump people  
*uyo*                      *uyo*                      *wapi wa-ṁ-kut<sup>h</sup>e*                      *wapi.*  
 DEM.MED.G1 DEM.MED.G1 where 3PL.SM-3SG.OM-meet.SUBJ where  
 「そいつが出てきて、飛び上がり、人々は『そいつ、そいつ』。どこ？彼らはどこにそいつをみるっていうんでしょう？」

- (79) *ha-wa-li-mu-ua*                      *tangu kati*   *uo*                      *kwani*.  
 NEG-3PL.SM-PFV.NEG-3SG.OM-kill since inside DEM.MED.G3 why  
 「彼らが、あいつを中で殺さなかったのはなぜでしょう。」
- (80) *hata w-ende*                      *wa-ka-mu-ue*.  
 even 3PL.SM-go.SUBJ 3PL.SM-CONS/COND-3SG.OM-kill.SUBJ  
*yulya*                      *bwana ke-si-zi*                                      *k-enda-zikwa*.  
 DEM.DIST.G1 sir                      3SG.SM-finish.PFV-bury.PASS.HESIT 3SG.SM-go:IPFV-bury.PASS  
 「彼らは、そいつを殺しに行くべきでした。そのご主人は埋められに行きます。」
- (81) *njo=ha-li-vatika*                                      *k-enende*                      *kumbe vilya*                      *si=mt<sup>h</sup>u* .  
 BGR=3SG.SM.NEG-PFV.NEG-get.STAT 3SG.SM-go.PFV FIL                      DEM.DIST.G8 NEG=person  
 「あいつは見つかりませんでした。行ってしまいました。あんな風で人ではありません。」
- (82) *ji-nyama*   *tu*.  
 AUG-animal only  
 「単なる怪物。」
- (83) *ji-jimwi*.  
 AUG-genie  
 「鬼。」
- (84) *li-sumku*.  
 G5.SM-run\_away.PFV  
 「あいつは逃げました。」
- (85) *haya paukwa iyo*                                      *i-si*.  
 FIL tale                      DEM.MED.G9 G9.SM-finish.PFV  
 「はい、このお話はおしまい。」
- (86) *nn*.  
 INT  
 「ええ。」
- (87) (*jimwi ka-na-sema*                      *nini*.)  
 (genie 3SG.SM-IPFV-tell what)  
 (「小鬼はなんと言っている?」)

- (88) *a-zikwe ja=vivyo.*  
 3SG.SM-bury.PASS.SUBJ like=DEM.MED.G8  
 「彼はあんな風に埋められて。」
- (89) (*ka-na-chaka maboga.*)  
 (3SG.SM-IPFV-want pumpkins)  
 「(小鬼は) かぼちやが欲しい?」
- (90) *jimwi ka-na-chaka maboga.*  
 genie 3SG.SM-IPFV-want pumpkins  
 「小鬼がかぼちやが欲しいって?」
- (91) *a iyo i-wa-ko hea nyi-wa.*  
 INT DEM.MED.G9 G9.SM-COP.PFV-EXIST but 1SG.SM-COP.PFV  
*p<sup>h</sup>anda nyingine. si=iyo.*  
 split other.G9 NEG=DEM.MED.G9  
 「それ(そういう話)はあります。だけど、それはまた別の分かれ道(別のお話)。これではないよ。」
- (92) *sasa ku-na jimwi ṁmoja.*  
 now G15.SM-POSS genie one.G1  
 「さて、小鬼が一匹おります。」
- (93) *bwana ṁmoja k-evu. makame wa=makame na=e*  
 sir one.G1 3SG.SM-COP.HESIT PN of.G1=PN COM=PRO.G1  
 「あるご主人がおりまして、彼もマカメの子、マカメです。」
- (94) *a-li-ondokea. makame wa=makame.*  
 3SG.SM-PST-leave.APPL PN of.G1=PN  
 「マカメの子、マカメがおりました。」
- (95) *makame wa=makame uyo. a-ka-sema*  
 PN of.G1=PN DEM.MED.G1 3SG.SM-CONS/COND-tell  
*ka-na-chaka ṁke.*  
 3SG.SM-IPFV-want wife  
 「そのマカメの子、マカメは妻が欲しいと言いました。」

- (96) *mahaa k-enda-posa.*  
 place 3SG.SM-go:IPFV-ask\_in\_marriage  
 「ある場所に、彼は結婚の挨拶に行きます。」
- (97) *a-k-ambiwa bi bwana weye leo*  
 3SG.SM-CONS/COND-tell.PASS lady.HESIT sir 2SG today  
*kw-isi-oa. harusi i-me-tendeka.*  
 2SG.SM-finish.PFV-marry marriage G9.SM-PRF-do.STAT  
 「彼は言われました。『ご主人、あなたは今日結婚してしまいました。結婚式は執り行われました。』」
- (98) *ku-vi-tambuu.*  
 2SG.SM-G8.OM-recognize.PFV  
 「分かった？」
- (99) *u-ka-vita mahaa va-na mto.*  
 2SG.SM-CONS/COND-PASS place G16.SM-POSS river  
*mto-ni yuno mwanamke ka-cha-kw-ambia ende*  
 river-LOC DEM.PROX.G1 woman 3SG.SM-IRR-2SG.OM-tell go.SUBJ:3SG.SM  
*a-k-oge. u-si-m-k<sup>h</sup>e ruhusa=yo*  
 3SG.SM-CONS/COND-bathe.SUBJ 2SG.SM-NEG-3SG.OM-give.SUBJ permit=DEM.MED.G1  
*kw-enda-koga. mw-ache ja=vivyo.*  
 INF-go-bathe 3SG.OM-leave.SUBJ like=DEM.MED.G8  
 「『あなたがある場所を通り過ぎたら、そこには川があります。川で、この女は、水浴びしに行ってもよいかとあなたに言うだろう。水浴びしに行く、許可を彼女に与えてはなりません。そんな感じで、彼女は放っておきなさい。』」
- (100) *basi wa-ke-nenda. sasa leo wa-na-kwenenda kwao.*  
 FIL 3PL.SM-CONS/COND-go now today 3PL.SM-IPFV-go their.G15  
 「こうして彼らは出発しました。今日、彼らは彼らのところへ行きます。」
- (101) *wa-k-enenda wa-k-enenda wa-k-enenda.*  
 3PL.SM-CONS/COND-go 3PL.SM-CONS/COND-go 3PL.SM-CONS/COND-go  
 「彼らはどんどんと進みます。」

- (102) *hata ku-fika valya mto-ni bwana. na-taka ku-koga.*  
 even INF-arrive DEM.DIST.G16 river-LOC sir IPFV:1SG.SM-want INF-bathe  
*bwana na-ona joto. yulya mwanamke.*  
 sir IPFV:1SG.SM-see hotness DEM.DIST.G1 woman  
 「そこの川に着くと、『ご主人様、水浴びがしとうございます。ご主人様、私は暑いです。』とその女。」
- (103) *bwana na-ona joto. a-ka-mw-ambia*  
 sir IPFV:1SG.SM-see hotness 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-tell  
*hea mama ka-tw-ambii tu-ka-fika mto-ni*  
 but mother 3SG.SM-1PL.OM-tell.PFV 1PL.SM-CONS/COND-arrive river-LOC  
*hebu oge=vyo.*  
 PROH bathe.SUBJ:2SG.SM=DEM.MED.G8  
 「『ご主人様、私は暑いです。』彼は彼女に言います。『だけど、お母さんは私たちが川に着いたら、水浴びしてはならない、と私たちに言いました。』」
- (104) *he bwana mie na-taka ku-koga. bwana na-ona joto.*  
 INT sir 1SG IPFV:1SG.SM-want INF-bathe sir IPFV:1SG.SM-see hotness  
*a-ka-mw-ambia haya ngia oge.*  
 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-tell FIL enter.IMP bathe.SUBJ:2SG.SM  
 「『ご主人様、水浴びがしとうございます。ご主人様、私は暑いです。』彼は彼女に言います。『分かった。(水に) 入りなさい。水浴びをなさい。』」
- (105) *a-ka-vua nguo zake zote*  
 3SG.SM-CONS/COND-take\_off clothes his/her.G10 all.G10  
*na=mapambo yake bi+harusi.*  
 COM=ornaments his/her.G6 Mrs.+marriage  
 「服をすべて、装飾品を脱ぎ去ります。花嫁は。」
- (106) *kama ja=yulya bi+harusi ya=sijaamini.*  
 like like=DEM.DIST.G1 Mrs.+marriage of.G1=PN  
 「スィジャアミニのあの花嫁みたいな感じ。」
- (107) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた？」



- (108) *a-ka-vua* *yoti. maguo yake.*  
 3SG.SM-CONS/COND-take\_off all.G6 clothes his/her.G6  
 「彼女は、服という服すべてを脱ぎ去りました。」
- (109) *hata a-k-oga* *a-k-oga*  
 even 3SG.SM-CONS/COND-bathe 3SG.SM-CONS/COND-bathe  
*a-φ-vyo-kwisa kumbe vilya li-ka-lawa ji-jimwi.*  
 3SG.SM-PFV-finish FIL DEM.DIST.G8 G8.SM-CONS/COND-come\_from AUG-genie  
*m̄lya kati ya=bahari.*  
 DEM.DIST.G18 inside of.G9=sea  
 「彼女が水浴びをして、ちょうど終えたとき、水の中から、鬼が現れました。」
- (110) *m̄lya m̄to-ni li-ka-lawa nini.*  
 DEM.DIST.G18 river-LOC G5-CONS/COND-come\_from what  
 「その川の中から、何がでてきたでしょう。」
- (111) *ji-jimwi li-ka-ja zilya nguo*  
 AUG-genie G5.SM-CONS/COND-come DEM.DIST.G10 clothes  
*za=m̄ke=we valya juu zi li-ka-vwaa.*  
 of.G10=wife=his/her DEM.DIST.G16 above HESIT G5.SM-CONS/COND-wear  
 「鬼は現れると、上にあった彼の（マカメの）妻の服を着ました。」
- (112) *yulya bwana ka-na-sema mie yuno njo=m̄ke yangu*  
 DEM.DIST.G1 sir 3SG.SM-IPFV-tell 1SG DEM.PROX.G1 BGR=wife my.G9  
*sura yake ja=yeye. m̄ke=we.*  
 appearance his/her.G9 like=3SG wife=his/her  
 「そのご主人は、言います。『この人こそが私の妻だ。見た目は、彼女そのもの。』  
 つまり、彼の妻のことです。」
- (113) *haya sasa tw-enende.*  
 FIL now 1PL.SM-go.SUBJ  
 「『さあ、行きましょう。』」
- (114) *wa-k-enenda wa-k-enenda mpaka kwao. nyumba-ni*  
 3PL.SM-CONS/COND-go 3PL.SM-CONS/COND-go until their.G15 house-LOC  
 「彼はどんどん進みました、彼らの家のところまで。』」

- (115) *kijji-ni*.  
village-LOC  
「村へ。」
- (116) *wa-ϕ-vyo-fika ye ka-na-sema njo=ṃke=we*.  
3PL.SM-PFV-G8.NMLZ-arrive 3SG 3SG.SM-IPFV-tell BGR=wife=his/her  
「彼らが到着したとき、彼は、(この人こそが) 彼の妻だと言いました。」
- (117) *yulya bibi ṃlya hata wakati a-ϕ-o-lawa*  
DEM.DIST.G1 lady DEM.DIST.G18 even time 3SG.SM-PFV-G3.NMLZ-come\_from  
*a-ka-lola valya juu mume=we ha-vo*.  
3SG.SM-CONS/COND-look DEM.DIST.G16 above husband=his/her 3SG.SM.NEG-EXIST  
*a-ka-lola valya juu nguo zake ha-zi-vo*.  
3SG.SM-CONS/COND-look DEM.DIST.G16 above clothes his/her.G10 NEG-G10.SM-EXIST  
「あそこの (川の中の) お嬢さんは、(川から) 出てきたとき、上を見まわして、彼女の夫はいません。上を見まわして、彼女の服はありません。」
- (118) *sasa ka-cha-kwenenda jaje*.  
now 3SG.SM-IRR-go how  
「さて、彼女はどこにどう行くのでしょうか。」
- (119) *a-k-enenda wala a-na-ko-kwenda*  
3SG.SM-CONS/COND-go though 3SG.SM-IPFV-G15.NMLZ-go  
*ha-kw-iji*.  
3SG.SM.NEG-G15.OM-know.PFV  
「彼女は、自分自身が向かう先を知らないで、出発しました。」
- (120) *a-k-enenda a-k-enenda a-k-enenda*  
3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-go  
*a-k-enenda a-k-enenda*.  
3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-go  
「彼女はどんどん進みました。」

- (121) *hata ku-fika mahaa vamoja ka-na-kona vijumba*  
 even INF-arrive place one.G16 3SG.SM-IPFV-see huts  
*ja=ivyo+ko a-ka-fuzia jaa-ni.*  
 like=DEM.MED.G8+DEM.MED.G15 3SG.SM-CONS/COND-proceed rubbish-LOC  
 「あるところに着くと、彼女は、あそこにあるような小屋を数軒みつけて、彼女はゴミ捨て場へとまっすぐに向かいました。」
- (122) *va-tupwa chicha*  
 G16.SM-throw\_away.PASS.PFV remains\_of\_grated\_coconut  
*njaa i-na-mu-uma.*  
 hunger G9.SM-IPFV-3SG.OM-hurt  
 「そこには、ココナッツの搾りかすが捨ててありました。彼女は空腹で苦しんでいるのです。」
- (123) *a-ka-okota zilya chicha*  
 3SG.SM-CONS/COND-pick\_up DEM.DIST.G10 remains\_of\_grated\_coconut  
*a-ka-wa ka-na-kulya.*  
 3SG.SM-CONS/COND-COP 3SG.SM-IPFV-eat  
 「彼女は、そのココナッツの搾りかすを拾い、食べていました。」
- (124) *ku-na mwanakele ka-na-kwenda kulya jaa-ni.*  
 G15.SM-POSS child 3SG.SM-IPFV-go DEM.DIST.G15 rubbish-LOC  
 「そこに、子供が現れます。その子はゴミ捨て場へと向かっています。」
- (125) *haa kuno hea yuno+ku mt<sup>hu</sup>.*  
 INT DEM.DIST.15 but DEM.PROX.G1+DEM.PROX.G15 person  
 「『あれまあ、こっちに人がいる』」
- (126) *tena a-k-emba yulya mt<sup>hu</sup>.*  
 then 3SG.SM-CONS/COND-sing DEM.DIST.G1 person  
 「そしてその人は歌いました。」

- (127) *maria we maria mama ka-tw-ambia maria.*  
 PN 2SG PN mother PFV.3SG-1PL.OM-tell PN  
*ṁto-ni tw-enda=ko maria. ṁkono wa=mwanangu maria.*  
 river-LOC 1PL.SM-go:IPFV=DEM.MED.G15 PN hand of.G3=child:my PN  
*shikio la=mwanangu maria.*  
 ear of.G5=child:my PN  
 『『マリアよ、マリア、お母さんは私たちに言いました。マリア。川に私たちは行きます。マリア。私の子供の手、マリア。私の子供の耳、マリア。』』
- (128) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた？」
- (129) *he.*  
 INT  
 (小休止)
- (130) *yulya mwanakele a-ka-piga mbio a-k-enda*  
 DEM.DIST.G1 child 3SG.SM-CONS/COND-hit speed 3SG.SM-CONS/COND-go  
*nyumba-ni mwao.*  
 house-LOC their.G18  
 「その子供は急いで、自分たちの家へと行きました。」
- (131) *a-ϕ-vyo-kwenda a-ka-mw-ambia mama=ake*  
 3SG.SM-PFV-G8.NMLZ-go 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-tell mother=his/her.G9  
 「家に着いたとき、彼はお母さんに言いました。」
- (132) *mama uko jaa-ni ku-na ṁt<sup>h</sup>u ka-na-kwimba.*  
 mother DEM.MED.G15 rubbish-LOC G15.SM-POSS person 3SG.SM-IPFV-sing  
*ka-na-kwimba bali ka-wa uchi.*  
 3SG.SM-IPFV-sing but 3SG.SM-COP.PFV naked  
 『『お母さん、そこのゴミ捨て場に人がいる。彼女は歌っている。彼女は歌っているけど、裸だよ。』』

- (133) *N-k<sup>h</sup>a=ga iyo nguo*  
 1SG.OM-give.IMP=bit DEM.MED.G9 clothes  
*mie ny-ende ha-m-k<sup>h</sup>e.*  
 1SG 1SG.SM-go.SUBJ CONS/COND:1SG.SM-3SG.OM-give.SUBJ  
 『その服をちょっとちょうだい。行って彼女にあげなきゃ。』
- (134) *a-ka-tupwa upande ja=uno a-k-enda*  
 3SG.SM-CONS/COND-throw\_away.PASS direction like=DEM.PROX.G3 3SG.SM-CONS/COND-go  
*a-ka-m-k<sup>h</sup>a a-ka-ji-bamba haya.*  
 3SG.SM-CONS/COND-3SG.OM-give 3SG.SM-CONS/COND-REFL-catch FIL  
 「彼は、こっちの方角に（服を）投げ出されると、行って、彼女に（服を）あげて、彼女はそれを身につけました。」
- (135) *walya wat<sup>h</sup>u wa-ka-lawa*  
 DEM.DIST.G2 people 3PL.SM-CONS/COND-come\_from  
*njo=wa-k-enda wa-ka-m-chukua.*  
 BGR=3PL.CONC/COND-go 3PL.SM-CONS/COND-3SG.OM-take  
 「その（そこの集落の）人々は出てきて、彼女を連れにきました。」
- (136) *wa-ø-vyo-kwenenda wa-k-enda wa-ka-m-chukua.*  
 3PL.SM-PFV-G8.NMLZ-go 3PL.SM-CONS/COND-go 3PL.SM-CONS/COND-3SG.OM-take  
 「彼らは行ったとき、彼女を連れに行きました。」
- (137) *haya a-ka-ja kuno.*  
 FIL 3SG.SM-come DEM.PROX.G15  
 「こうして、彼女は、こちらに来ました。」
- (138) *a-ka-ja kuno tena kia mt<sup>h</sup>u*  
 3SG.SM-CONS/COND-come DEM.PROX.G15 then every person  
*ka-na-sema na=mie leo a-je kwangu.*  
 3SG.SM-IPFV-tell COM=1SG today 3SG.SM-come.SUBJ my.G15  
 「彼女がこちらに来ると、みんなが『今日は私のところに彼女はいらっしゃい』と言います。」
- (139) *na=leo mie a-je kwangu k-enda a-k-emba.*  
 COM=today 1SG 3SG.SM-come.SUBJ my.G15 3SG.SM-go:IPFV 3SG.SM-CONS/COND-sing  
 『今日も、私のところへいらっしゃい。』(そう言われて)彼女は歌いに行きます。」

- (140) *maria we maria. mama ka-tw-ambia maria.*  
 PN 2SG PN mother PFV-1PL.OM-tell PN  
*ṁto-ni tw-enda=ko maria.*  
 river-LOC 1PL.SM-go:IPFV=DEM.MED.G15 PN  
*ku-na dudu ovu maria. ṁguu wa=mwanangu maria.*  
 G15.SM-POSS insect evil.G5 PN leg of.G3=child.my PN  
*shikio la=mwanangu maria. kichwa cha=mwanangu maria.*  
 ear of.G5=child:my PN head of.G7=child:my PN  
 『『マリアよ、マリア、お母さんは私たちに言いました。マリア。川に私たちは行きます。そこには、醜い虫がいます。マリア。私の子供の足、マリア。私の子供の耳、マリア。私の子供の頭、マリア。』』
- (141) *he.*  
 INT  
 「え。」
- (142) *he maria we maria ṁpaka siku moja.*  
 INT PN 2SG PN until day one  
 『『マリアよ、マリア』とある日まで。』
- (143) *a-k-enda juu ya kwa=kia ṁt<sup>h</sup>u ka-na-ṁ-chaka.*  
 3SG.SM-CONS/COND-go above of.G9 of.15=every person 3SG.SM-IPFV-3SG.OM-want  
 「彼女は彼女を望むどんな人のところにも行きました。」
- (144) *a-k-enda a-ka-lawia*  
 3SG.SM-CONS/COND-go 3SG.SM-CONS/COND-come\_from.APPL  
*valya va-na-vo yulya mume=we.*  
 DEM.DIST.G16 G16.SM-POSS-G16.NMLZ DEM.DIST.G1 husband=his/her  
 「彼女は、彼女の夫がいるところへと行きました。」
- (145) *sasa yulya mume=we njo=ka-na yulya jimwi.*  
 now DEM.DIST.G1 husband=his/her BGR=3SG.SM-POSS DEM.DIST.G1 genie  
 「さて、その夫は、件のとおり、あの小鬼とおります。」
- (146) *lilya jimwi li-k-enua kichwa.*  
 DEM.DIST.G5 genie G5.SM-CONS/COND-raise head  
 「その小鬼は、頭を上げます。」

- (147) *yamaa=ni iyo uchamu gani nye.*  
 colleague=AL.PL DEM.MED.G3 sweetness what.kind Q  
 『みなさん、それはどんな素敵なものですか』
- (148) *maana jimwi k-evu a-ka-choea ja=ivyo.*  
 so genie 3SG.SM-COP.PST 3SG.SM-CONS/COND-speak like=DEM.MED.G8  
 「ちなみに、小鬼はそんな風にしゃべっていたのです。」
- (149) *uno njo=uchamu gani.*  
 DEM.PROX.G3 BGR=sweetness what\_kind  
 『これはどんな素敵なものですか。』
- (150) *ee jamaa kichu kichamu=cho nye*  
 INT colleague thing sweet.G7=DEM.MED.G7 Q  
*ka-na-kuna nazi ilya nazi a-ka-y-acha.*  
 3SG.SM-IPFV-scratch coconut DEM.DIST.G9 coconut 3SG.SM-CONS/COND-G9.OM-leave  
 『お前さんよ、それは素敵なものです。』（小鬼は）ココナッツを削っています。  
 そのココナッツを放りました。』
- (151) *ee maria we maria. mama ka-tw-ambia maria.*  
 INT PN 2SG PN mother PFV:3SG-1PL.OM-tell PN  
 『マリアよ、マリア、お母さんは私たちに言いました。マリア。』
- (152) *ilya ka-na-sikiliza. ilya nazi ka-y-acha.*  
 DEM.DIST.G9 3SG.SM-IPFV-listen DEM.DIST.G9 coconut 3SG.SM-G9.OM-leave.PFV  
 「それを小鬼は聞いています。ココナッツを放りました。」

- (153) *ṁto-ni twenda=ko maria. ku-na dudu ovu maria*  
 river-LOC 1PL.SM-go:IPFV=DEM.MED.G15 PN G15.SM-POSS insect evil.G5 PN  
*ṁkono wa=mwangu maria. shikio la=mwangu maria.*  
 hand of.G3=child.my PN ear of.G5=child:my PN  
*mume=we ka-tulii tu ka-na-ṁ-lola jimwi*  
 husband=his/her 3SG.SM-be.calm.PFV only 3SG.SM-IPFV-3SG.OM-look genie  
*a-na-vyo-tenda valya juu ya=mbuzi.*  
 3SG.SM-IPFV-G8.NMLZ-do DEM.DIST.G16 above of.G9=coconut\_grater

「『川に私たちは行きます。そこには、醜い虫がいます。マリア。私の子供の手、マリア。私の子供の耳、マリア。』彼女の夫は落ち着いています。彼は小鬼を見つめています。ココナッツを削る道具の上での小鬼の様子を。」

- (154) *ye ka-wa ja=vino jimwi.*  
 3SG 3SG.SM-COP.PFV like=DEM.PROX.G8 genie

「小鬼はこんな風です。」

- (155) *hee mama ka-chw-ambiya maia. ṁcho-ni chwenja=ko maia.*  
 INT mother PRF-1PL.OM-tell PN river-LOC 1PL.SM-go=DEM.MED.G15 PN  
*ṁkonyo wa=mwanangu. ka-na-vua bangili=yo.*  
 hand of.G3=child:my 3SG.SM-IPFV-take.off bangle  
*shikio ya=mwanangu maria. ka-na-vua haline.*  
 ear of.G5=child:my PN 3SG.SM-IPFV-take.off earring

「『お母さんは私たちに言いました。マリア。川に私たちは行きます、マリア。私の子供の手』小鬼は、腕輪を脱ぎます。『私の子供の耳、マリアよ。』小鬼はピアスを外します。」

- (156) *shikio ya=mwanangu maia. mama ka-chw-ambia maia. kichwa cha=mwanangu.*  
 ear of.G5=child:my PN mother PFV.3SG-1PL.OM-tell PN head of.G7=child:my

「『私の子供の耳、マリア。お母さんは私たちに言いました。マリア。私の子供の頭』」

- (157) *kia a-na-vo-ji-guiya ka-na-vua kit<sup>h</sup>u.*  
 every 3SG.SM-IPFV-G16.NMLZ-REFL-catch 3SG.SM-IPFV-take.off thing

「つかんだ (体の) いたるところで、小鬼は (身に着けている) ものを外しています。」



- (158) *wa-ka-ṁ-lola*                      *k-ooto*                      *ṁkia na=mabawa.*  
 3PL.SM-CONS/COND-3SG.OM-look 3SG.SM-stretch tail COM=wings  
 「人々が目を向けると、小鬼はしっぽと翼を伸ばしました。」
- (159) *uyo*                      *jimwi ka-ruku.*  
 DEM.MED.G1 genie 3SG.SM-jump.PFV  
 「その小鬼は飛び立ちました。」
- (160) *avo*                      *ha-li-pigwa.*  
 DEM.MED.G1 3SG.SM.NEG-PFV.NEG-hit.PASS  
 「そこでは、小鬼は殴られませんでした。」
- (161) *ha-li-tendwa*                      *jambo hea tena k-enende.*  
 3SG.SM.NEG-PFV.NEG-do.PASS matter but then 3SG.SM-go.PFV  
 「小鬼は何もされませんでした。行ってしまいました。」
- (162) *yulya*                      *mwanamke a-ka-sema*                      *ṁ-na-kona*                      *mie*  
 DEM.DIST.G1 woman 3SG.SM-CONS/COND-tell 2PL.SM-IPFV-see 1SG  
*yuno*                      *njo=ṁke yangu=vyo*                      *yulya*                      *mwanamme*  
 DEM.PROX.G1 BGR=wife my.G9=DEM.MED.G9 DEM.DIST.G1 man  
*a-ϕ-vyo-sema.*  
 3SG.SM-PFV- G8.NMLZ-tell  
 「その女性は言いました。『あなたたちみていますか。』『この人こそが私の妻だ』  
 とその男のいうところ」
- (163) *maana yuno*                      *mie mama ka-ny-ambii*                      *ama*  
 so DEM.PROX.G1 1SG mother 3SG.SM-1SG.OM-tell.PFV like  
*uyo*                      *ṁto-ni a-s-ende-koga.*  
 DEM.MED.G1 river-LOC 3SG.SM-NEG-go-bathe  
 「『こういうわけで、この私にお母さんは、この人は川で水浴びをしてはいけない  
 と言いました。』」

- (164) *ha-li-dumba=yo*  
 3SG.SM.NEG-PFV.NEG-agree=DEM.MED.G1  
*a-k-enda-koga li-lawa ilyo ji-dudu.*  
 3SG.SM-CONS/COND-go-bathe G5.SM-come\_from.PFV DEM.MED.G5 AUG-insect  
 「彼女は、同意しませんでした。彼女は水浴びをしに行って、あの巨虫が現れました。」
- (165) *ji-jimwi. ilyo li-me-kwenenda.*  
 AUG-genie DEM.MED.G5 G5.SM-PRF-go  
 「あの鬼です。あいつは行ってしまいました。」
- (166) *tena valya yulya bibi i-ka-tendeka*  
 then DEM.DIST.G16 DEM.DIST.G1 lady G9.SM-CONS/COND-do.STAT  
*aka ka-fiki vake a-kae na=mume=we.*  
 3SG.SM.HESIT 3SG.SM-arrive.PFV his/her.G16 3SG.SM-sit.SUBJ COM=husband=his/her  
 「そして、そこでその女性は、彼女の夫と暮らすために彼のところに至ることになりました。」
- (167) *ji-jimwi li-ruku ly-enende.*  
 AUG-genie G5.SM-jump.PFV G5.SM-go.PFV  
 「鬼は飛び立ちました。行ってしまいました。」
- (168) *nn.*  
 INT  
 「んん。」
- (169) *sasa jimwi.*  
 now genie  
 「さて、小鬼ですが。」
- (170) *ye jimwi ka-kazwa N=maboga kwa=ku-lya.*  
 3SG genie 3SG.SM-please.PASS.PFV by=pumpkins of.G15=INF-eat  
 「小鬼は、かぼちゃを食べるのが好きです。」
- (171) *vyakulya vyote basi vit<sup>hu</sup> a-na-vyo-chaka maboga.*  
 foods all.G8 FIL things 3SG.SM-IPFV-G8.NMLZ-want pumpkins  
 「すべての食べ物で、彼が欲しいのはかぼちゃ。」

- (172) *ku-vi-tambuu*  
 2SG.SM-G8.OM-recognize.PFV  
 「わかった？」
- (173) *ee maana jimwi njo chu-lye maboga.*  
 INT so genie come.IMP 1PL.SM-eat.SUBJ pumpkins  
*jimwi njo chu-lye maboga. jimwi njo.*  
 genie come.IMP 1PL.SM-eat.SUBJ pumpkins genie come.IMP  
 「だから、『小鬼よ、おいで、かぼちゃを食べましょう。小鬼よ、おいで、かぼちゃを食べましょう。小鬼よ、おいで。』」
- (174) *njo=vyakulya vyake.*  
 BGR=foods his/her.G8  
 「まさに彼の食べ物です。」
- (175) *ku-sikii.*  
 2SG.SM-hear.PFV  
 「聞いた？」
- (176) *a-vate maboga a-vate kichwa cha=p<sup>h</sup>aa.*  
 3SG.SM-get.SUBJ pumpkins 3SG.SM-get.SUBJ head of.G7=gazelle  
 「小鬼はかぼちゃを手に入れなければならない。小鬼はガゼルの頭を手に入れなければならない。」
- (177) *njo=vyakulya vya=jimwi.*  
 BGR=foods of.G8=genie  
 「まさに小鬼の食べ物です。」
- (178) *hea uyo jimwi mara nyingi ka-na-wa uko hadithi-ni*  
 but DEM.MED.G1 genie time many.G10 3SG.SM-IPFV-COP DEM.MED.G1 story-LOC  
 「だけど、その小鬼は、多くの場合、物語の中にいます。」
- (179) *ku-na-ko paukwa.*  
 G15.SM-POSS-G15.NMLZ tale  
 「お話の中。」

- (180) *ee.*  
INT  
「そう。」
- (181) *haya.*  
FIL  
「はい。」
- (182) *ee.*  
INT  
「うん。」
- (183) *hadithi nyingi tu.*  
story many.G9/G10 only  
「多くのお話よ。」
- (184) *haya.*  
FIL  
「はい。」
- (185) (*u- $\phi$ -zo-N-hadithia.*)  
2SG.SM-PFV-G10.NMLZ-1SG.OM-narrate)  
「あなたが私に話してくれたもの。」
- (186) *ee.*  
INT  
「うん。」
- (187) (*ku-fundishwa N=nani*)  
(2SG.SM-teach.PASS.PFV by=who)  
「(「誰に教えてもらったの?」)」

- (188) *mie N-fundishwa*                      *N=mama=angu k-evu*  
 1SG 1SG.SM-teach.PASS.PFV by=mother=my 3SG.SM-COP.PST  
*a-ka-N-lea.*                                      *mt<sup>h</sup>u m̄zima vino.*  
 3SG.SM-CONS/COND-1SG.OM-bring\_up person whole.G1 DEM.PROX.G8  
 「私？私のお母さんに教えてもらいました。彼女が私を育てました。こんな感じの（今の私のような）大人です。」
- (189) (*wapi. uko*                      *tunguu.*)  
 (where DEM.MED.G15 PN)  
 「(「どこで？ トウングウ？)」
- (190) *ee uko*                      *tunguu. ee.*  
 INT DEM.MED.G15 PN                      INT  
 「そう、トウングウで。」
- (191) *njo=a-φ-ko-fundisha.*  
 BGR=3SG.SM-PFV-G15.NMLZ-teach  
 「まさに、そこで教えてくれました。」
- (192) *tena wakati uo*                      *na-ngoja*                      *vyakulya v-ivwe*  
 then time    DEM.MED.G3 IPFV:1SG.SM-wait foods    G8.SM-ripen.SUBJ  
*kiasi saa mbili njo=kw-aza*    *mama=angu ka-na-kuna*                      *nazi.*  
 degree hour two    BGR=INF-begin mother=my 3SG.SM-IPFV-scratch coconut  
 「そのとき、私は、ごはんができるのを待っています。大体、8時くらい。ちょうどそのときに、私のお母さんはココナッツを削り始めます。」
- (193) *tena na-tendwa*                      *hadithi N-si-lale.*  
 then IPFV:1SG.SM-do.PASS story    1SG.SM-NEG-sleep.SUBJ  
 「そして、私は、寝ないようにお話をしてもらいます。」
- (194) *vyakulya vi-na-vikwa*                      *N-je*                      *nyi-lye.*  
 foods    G8.SM-IPFV-cook.PASS 1SG.SM-come.SUBJ 1SG.SM-eat.SUBJ  
 「ごはんは料理されています。私は来て食べなければならない。」

- (195) *tena haya mama ka-na-tenda hadithi ama baba=angu*  
 then FIL mother 3SG.SM-IPFV-do story or father=my  
*ka-na-tenda hadithi N-si-lale.*  
 3SG.SM-IPFV-do story 1SG.SM-NEG-sleep.SUBJ  
 「そして、お母さんはお話をする。あるいは私のお父さんがお話をする。私が寝ないように。」
- (196) *maana ch<sup>h</sup>a-sizia.*  
 so IRR:1SG.SM-doze  
 「だって、私はうとうとするだろうから。」
- (197) *hea zi-ka-tendwa izo.*  
 but G10.SM-CONS/COND-do.PASS DEM.MED.G10  
 「だけど、それらは、話されます。」
- (198) *si-sizii ch<sup>h</sup>a-wahi vilya vyakulya*  
 1SG.SM-NEG-doze.PFV IRR:1SG.SM-be.in.time DEM.DIST.G8 foods  
*vi-na-vyo-kuniwa nazi.*  
 G8.SM-IPFV-G8.NMLZ-scratch.APPL.PASS coconut  
 「私は、うとうとしません。ココナッツが削られてできたそのごはんまで起きていられます。」
- (199) *wakati uo maisha magumu.*  
 time DEM.MED.G3 life hard.G6  
 「その頃、生活は厳しかった。」
- (200) *ezi zetu tu- $\emptyset$ -vyo-lelegwa suwe makoto. maisha magumu sana.*  
 age our.G10 1PL.SM-PFV-G8.NMLZ-bring.up.PASS 1PL PN life hard.G6 very  
 「私たちが育てられた時代、生活はとても厳しかったんだよ、マクト。」
- (201) *nn.*  
 INT  
 「うん。」
- (202) *maana pesa y-evu ha ngumu ha-ku-na pesa*  
 so money G9.SM-COP.PST HESIT hard.G9 NEG-G15.SM-POSS money  
 「だって、お金（を得るの）は難しかった。お金はない。」

- (203) *bali vyakulya u-ka-na*                      *pesa vy-evu*                      *njo=vi-wa-ko.*  
 but foods    2SG.SM-CONS/COND-POSS money G8.SM-COP.PST BGR=G8.SM-COP.PFV-EXIST  
 「だけど、ごはんは、あなたにお金があれば、あったのよ。」
- (204) *na=tw-evu*                      *tu-ka-lima*  
 COM=1PL.SM-COP.PST 1PL.SM-CONS/COND-cultivate  
*ja=ŋ-ka-lima*                      *ku-na-vi-vata.*  
 like=2PL.SM-CONS/COND-cultivate 2SG.SM-IPFV-G8.OM-get  
 「そして、私たちは、野を耕していました。あなたたちが耕せば、それを（ごはんを）得るように。」
- (205) *maana wakati uo*                      *vua zi-na-kunya.*  
 so    time    DEM.MED.G3 rain G10.SM-IPFV-rain  
 「なぜなら、そのころ、雨が降っていましたから。」
- (206) *haya.*  
 FIL  
 「そう」
- (207) (*a-ka-ku-hadithia*                      *kiswahili au kikaē.*)  
 3SG.SM-CONS/COND-2SG.OM-narrate Swahili or Kikaē  
 (「(お母さんは) お話を、スワヒリ語とカエ方言のどちらでしていましたか?)
- (208) *kikaē. njo=ka-na-ny-ambia*                      *kwa=kikaē.*  
 Kikaē BGR=3SG.SM-IPFV-1SG.OM-tell of.G15=Kikaē  
*k-evu*                      *a-ka-choea*                      *kikaē mama=angu.*  
 3SG.SM-COP.PST 3SG.SM-CONS/COND-speak Kikaē mother=my  
 「カエ方言よ。カエ方言で彼女は私に話していました。彼女はカエ方言でしゃべっていました。私のお母さんは。」

## 略号一覧

1	first person (1 人称)	IRR	irrealis (未実現)
2	second person (2 人称)	LOC	locative (所格)
3	third person (3 人称)	MED	medial (中称)
AL	allocutive (聞き手)	NEG	negative (否定)
APPL	applicative (適用)	NMLZ	nominalizer (準体言化)
AUG	augmentative (指大)	OM	object marker (目的語標識)
BGR	background (背景)	ONM	onomatopoeia (オノマトペ)
CAUS	causative (使役)	PASS	passive (受動)
CF	counter-factual (反実仮想)	PFV	perfective (完結)
COM	comitative (共格)	PL	plural (複数)
COND	conditional (条件)	PN	proper noun (固有名詞)
CONS	consecutive (継起)	POSS	possessive (所有)
COP	copula (コピュラ)	PRF	perfect (完了)
DEM	demonstrative (指示詞)	PRO	pronoun (代名詞)
DIM	diminutive (指小)	PROH	prohibitive (禁止)
DIST	distal (遠称)	PROX	proximal (近称)
EXIST	existence (存在)	PST	past (過去)
FIL	filler (フィラー)	Q	question (疑問)
G	gender (名詞クラス)	RED	reduplication (重複)
HESIT	hesitative (言いよどみ)	REFL	reflexive (再帰)
IMP	imperative (命令)	SG	singular (単数)
INF	infinitive (不定)	SM	subject marker (主語標識)
INT	interjective (間投詞)	STAT	stative (状態)
IPFV	imperfective (未完結)	SUBJ	subjunctive (接続)

## 参考文献

- Baraza la Kiswahili la Zanzibar (BAKIZA). (2012). *Kamusi la lahaja ya Kimakunduchi*. Zanzibar: Baraza la Kiswahili la Zanzibar.
- Contini-Morava, E. (1994). *Noun classification in Swahili*. Research reports from the Inst. for Advanced Technology in the Humanities, Univ. of Virginia. Retrieved September 4, 2015, from <http://www2.iath.virginia.edu/swahili/swahili.html>
- Katamba, F. (2003). Bantu nominal morphology. In D. Nurse, & G. Philippson (Eds.), *The Bantu Languages* (pp. 103–120). London: Routledge.
- Meinhof, C. (1932). *Introduction to the phonology of the Bantu languages* (translated by N. J. van Waremelo). Berlin: Dietrich Reimer Verlag.



- Nurse, D. (1982). A tentative classification of the primary dialects of Swahili. *Sprache und Geschichte in Afrika* 4, 165–206.
- Nurse, D., & Hinnebusch, T. J. (1993). *Swahili and Sabaki: A linguistic history*. Berkeley: University of California Press.
- Racine-Issa, O. (2002). *Description du Kikae: Parler Swahili du sud de Zanzibar: Suivie de cinq contes*. Leuven: Peeters Publishers.
- Whiteley, W. H. (1959). An introduction to the rural dialects of Zanzibar, part1. *Swahili* 30, 41–69.
- 柴谷方良. (2014). Rethinking relative clause. 第 92 回待兼山ことばの会講演スライド.  
[http://www.let.osaka-u.ac.jp/eigogaku/Matt\\_Shibatani\\_koenkai.pdf](http://www.let.osaka-u.ac.jp/eigogaku/Matt_Shibatani_koenkai.pdf) (閲覧日 2017 年 3 月 30 日)
- 古本 真. (2016). 「スワヒリ語カエ方言の「関係節」－準体言としての記述－」『言語記述論集 8』 147–172.

受理日 2017 年 4 月 10 日